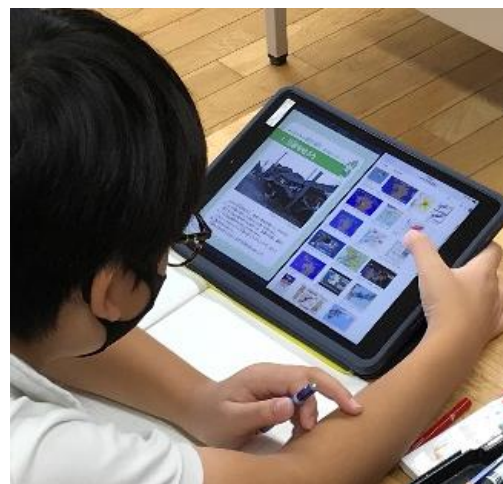


「命を守る」防災教育推進事業

# 防災教育実践事例集 II



令和5年3月

岐阜県教育委員会 学校支援課

# 目次

1 はじめに	1頁
2 教科等における実践に向けて ～今後の防災教育に期待すること～	1頁
3 小学校・中学校における防災教育に係る学習内容等	2頁
4 実践事例集の見方	3～4頁
5 小学校 第3学年 理科 「光と音の性質」	5～6頁
6 小学校 第4学年 社会 「自然災害から暮らしを守る ～地震から暮らしを守る～」	7～8頁
7 小学校 第6学年 社会 「震災復興の願いを実現する政治」	9～10頁
8 小学校 第6学年 家庭 「家族・家庭生活についての課題と実践」	11～12頁
9 小学校 第3学年 体育 「健康な生活」	13～14頁
10 小学校 第4学年 特別の教科 道徳 B(7) 感謝	15～16頁
11 小学校 第4学年 総合的な学習の時間 「奥飛騨防災パラダイス！計画」	17～18頁
12 中学校 第1学年 理科 「大地の成り立ちと変化」	19～20頁
13 中学校 第2学年 社会 「自然災害と防災・減災の取組」	21～22頁
14 中学校 第2学年 技術・家庭(家庭分野) 「衣食住の生活についての課題と実践」	23～24頁
15 中学校 第3学年 保健体育 「健康な生活と疾病の予防」	25～26頁
16 中学校 第3学年 特別の教科 道徳 C(12) 社会参画、公共の精神	27～28頁
17 中学校 第1学年 総合的な学習の時間 「自己と地域を知る」	29～30頁
18 防災教育の実践に当たって ～強化チーム委員からのメッセージ～	31～33頁
19 強化チーム委員の皆さんから実践後に寄せられた声をご紹介します	34～36頁
20 参考資料	37頁

## 1 はじめに

毎年大きな自然災害が頻発し、南海トラフ地震等の発生も予想される中、防災教育の重要性が一層高まっています。また、東日本大震災以降、「命を守る訓練」や地域と連携した取組が積極的に進められていますが、地域、学校間の差や活動の固定化が課題として指摘されています。さらに、学習指導要領（平成29年告示）の改訂に伴い、各教科等において防災の内容が重視されており、それぞれのつながりを踏まえた指導が求められています。

そこで、岐阜県教育委員会では、令和2年度から、学校の防災教育をリードする専門性の高い教員集団「岐阜県防災教育強化チーム」を組織し、「命を守る」防災教育の普及・啓発に努めています。

令和2年度は、『体系的・系統的な防災教育』の充実に向けた指導資料を作成し、令和3年度は、その指導資料に基づく授業実践を行い、「防災教育実践事例集Ⅰ」を作成して、県内の各小・中学校等に配布しました。

令和4年度は、新たな委員を迎えて「岐阜県防災教育強化チーム」を組織し、令和3年度に引き続いて、防災教育を通して育成したい資質・能力を明確にし、他の教育活動や家庭・地域と連携を図った授業を行いました。そして、その実践について強化チームで検討し、本資料「防災教育実践事例集Ⅱ」にまとめました。本資料が、各学校の教科等における防災教育の充実を図る上で参考となることを願っています。

## 2 教科等における実践に向けて ～今後の防災教育に期待すること～

今回の防災教育強化チームでは、実践と対話を繰り返しながらの取組を行ってきました。その中で、教科の単元それぞれに、実はさまざまな防災の視点が含まれていること、災害時に起きることや考えないといけないことは特別なことではなく、日常と変わらないことに気付いたというお話を多くの先生方から伺いました。まさにその通りで、災害や防災の話は日常から切り離された特別の話、新たな話ということではなく、日常の延長なのです。この気付きの前までは、教科に防災の視点を入れるということのイメージが湧かず、ワークショップでもなかなかアイデアが出てこなかったのですが、この気付きの後には、驚くほど活発な意見交換が行われました。

最終回には、ワークショップの中で、先生方それぞれの防災教育実践内容を相互に共有したのですが、同じ教科の先生同士の共有だけでなく、違う教科の先生同士での共有も行いました。この対話では、同じ教材を違う教科で共通に使うことで、教科連携で学びを広げられること、そしてその具体的な案など、カリキュラム・マネジメントにもつながる議論が行われました。チームメンバーとして参加された先生方には、ぜひ、ご自身の学校や教科の先生方とのつながり、教員研修など様々な機会に、今回作成した実践事例集や防災副読本の授業活用例集の活用や、このチームでの学びを共有していただきたいと思います。

私自身、今回の取組を通じて、各教科の中で防災を取り上げることはそれほど難しいことではなく、教科を超えた学びのきっかけとしても非常に有効であることを再確認しました。ぜひ、今後も実践事例の募集と報告会などを行い、教科単位の実践事例集の充実のみならず、カリキュラム・マネジメント例まで広がるといいなと思っています。今後の防災学習が教科学習を通じて日常の学びにつながり、総合的な学びにつながることを期待しています。

岐阜県防災教育強化チーム委員 岐阜大学流域圏科学研究センター 准教授 小山 真紀



# 3 小学校・中学校における防災教育に関する学習内容等

小	1・2・3年生	4年生	5年生	6年生	中	1年生	2年生	3年生
---	---------	-----	-----	-----	---	-----	-----	-----

<b>生活科</b> 学校、家庭及び地域の生活に関する内容 ・学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて学ぶ。 ・地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について学ぶ。 身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容 ・公共物や公共施設、それらを支えている人々について学ぶ。	<b>社会</b> 自然災害から人々を守る活動 ・地域や関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを学ぶ。	<b>社会</b> 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連 ・自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを学ぶ。	<b>社会</b> 自然災害からの復旧や復興 ・国や地方公共団体の政治として、自然災害からの復旧や復興の取組を学ぶ。			<b>社会(地理的分野)</b> 日本の地域的特色と地域区分 ・我が国の地形や気候と関連する自然災害と防災への取組について学ぶ。 地域調査の手法 日本の諸地域
	<b>理科</b> 雨水の行方と地面の様子 ・雨水が川へと流れ込むことに触れることで、自然災害との関連を学ぶ。	<b>理科</b> 流れる水の働きと土地の変化 ・長雨や集中豪雨がもたらす川の増水による自然災害を学ぶ。 天気の変化 ・長雨や集中豪雨、台風などの気象情報から、自然災害を学ぶ。	<b>理科</b> 土地のつくりと変化 ・火山の噴火や地震がもたらす自然災害を学ぶ。	<b>理科</b> 大地の成り立ちと変化 ・自然がもたらす恵み及び火山災害と地震災害を、火山活動や地震発生の仕組みと関連付けて学ぶ。	<b>理科</b> 気象とその変化 ・気象現象がもたらす恵みと気象災害を、天気の変化や日本の気象と関連付けて学ぶ。	<b>理科</b> 自然と人間 ・地域の自然災害について、総合的に調べ、自然と人間との関わり方について学ぶ。

<b>体育</b> けがの防止 ・けがの起こり方とその防止、けがの悪化を防ぐための簡単な手当などを学ぶ。
--

<b>保健体育</b> 傷害の防止 ・自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること等を学ぶ。
<b>技術・家庭科</b> 住居の機能と安全な住まい方 ・自然災害に備えた住空間の整え方を学ぶ。

<b>特別の教科 道徳</b> [生命の尊さ] ・生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。(1・2年) ・生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。(3・4年) ・生命が多く、生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。(5・6年) [節度、節制] [親切、思いやり] [勤労、公共の精神]
--

<b>特別の教科 道徳</b> [生命の尊さ] ・生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。 [節度、節制] [思いやり、感謝] [社会参画、公共の精神] [勤労]
--

\*本資料は、小・中学校学習指導要領(平成29年告示)解説総則編「防災を含む安全に関する教育(現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容)」を参考に作成しています。



## 4 実践事例集の見方

### (1) 指導案

#### 5 小学校 第4学年 理科 「雨水の行方と地面の様子」

##### 1 本時のねらい(2・3/5時)

- ・雨水が地面を流れていく様子から、雨水の流れ方に着目して、雨水の流れる方向と地面の傾きとを関係付けて、降った雨の流れの行方を調べる活動を通して、水は高い場所から低い場所へと流れて集まることを理解することができる。

##### 2 評価規準

- ・水は、高い場所から低い場所へと流れて集まることを理解している。

##### 3 防災教育の充実に向けて


###### (1) 防災教育を通して育成したい資質・能力及び本時の実践

防災教育を通して育成したい資質・能力	<b>知識及び技能</b> 様々な自然災害等の危険性、安全で安心な生活を実現するために必要な知識や技能を身に付ける。
防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえた本時の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体が公表しているハザードマップを活用し、地域や自宅の浸水区域を確認する。</li> <li>・排水の仕組みを確認する。</li> </ul>

###### (2) 教科等横断的な視点及び家庭や地域との連携

教科等横断的な視点	<b>情報活用能力</b> 一人一台端末を活用して、浸水を防ぐための地域のハザードマップについての情報を活用する。
家庭や地域との連携	地域の浸水区域の情報を保護者と共有し、地域の防災意識を高める。

#### 4 学習展開

過程	主な活動
問題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雨の日の運動場の様子を写真で確認する。</li> <li>・いつも同じ場所に水たまりができるのはどうしてだろうか。</li> </ul>
予想や仮説の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地面の傾きと水の流れる向きとを予想する。</li> </ul>
検証計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビー玉を使って、いつも水たまりができる場所の地面の傾きを調べる。</li> </ul>
観察、実験の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビー玉が転がった向きをまとめる。(絵や写真への矢印の書き込み等)</li> </ul>
結果の処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビー玉の転がった向きから地面の傾きを考え、水の流れる向きとの関係を考察する。</li> </ul>
考察	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水は、高い場所から低い場所へと流れて集まることをまとめる。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排水の仕組みを確認する。</li> <li>・ハザードマップから、学校や自宅周辺の浸水区域を知る。</li> </ul>
	<p>計画規模(L1)      想定最大規模(L2)</p>  <p>出典：大垣市洪水ハザードマップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大雨が降ると学校の東側が浸水することが分かりました。</li> <li>・私の家の近くでも大雨が降ると浸水する危険な場所があることが分かりました。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水害が起きた場合、どういう所に避難するとよいのかを考える。</li> </ul>

・校種、学年、教科等、単元・題材名を記載しています。  
・単元・題材名は、学習指導要領に基づいて記載しています。

・教科等におけるねらい・評価規準を記載しています。

・防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえ、本時のねらいに基づいて実践の具体を明らかにしています。

・カリキュラム・マネジメントを推進する観点から、教科等横断的な視点(特別の教科 道徳については「他の教育活動との関連」)、家庭や地域との具体的な連携の方法について記載しています。

・特に防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえた内容を太枠で囲んでいます。

## (2) 実践のまとめ

・教科等における防災教育とのつながりが分かるように、タイトルを記載しています。

### 理科

#### 「排水の仕組み」及び「ハザードマップ」を取り上げ、

#### 災害を自分事として捉える学習

第4学年

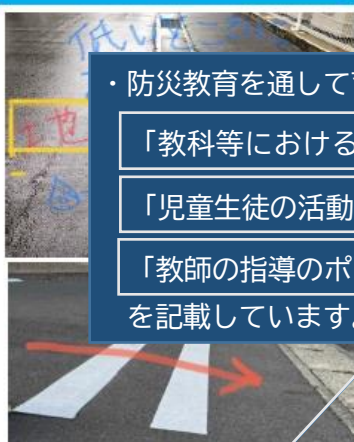
雨水の行方と地面の様子

・実践の中で見られた児童生徒の姿を記載しています。

こんな子どもたちの姿が生まれました！

・排水の仕組みや地域の浸水区域を確認することで、水が高い場所から低い場所へと流れて集まることについての理解が深まり、自然災害に対する危機意識が高まりました。

#### 「排水の仕組み」を取り上げたことによる効果



校庭内にある駐車場が少し斜めに

・防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえた

「教科等における指導の在り方・指導方

「児童生徒の活動」

「教師の指導のポイント」

を記載しています。

降ったときに水がたまらないようにするために、少し斜めにして低い場所に排水溝を作ったのだと思います。

理科を学ぶことの意義や有用性の実感及び理科への関心を高めることができるようにする。

・大雨が降ったときに校舎の周辺で浸水する可能性がある場所、浸水を防ぐための工夫を考える。  
・浸水を防ぐために、自宅周辺やよく訪れる地域ではどのような工夫がされているのかを調べる。

#### 教師の指導のポイント

・児童にとって身近な場所に目を向けさせることで、水は高い場所から低い場所へと流れて集まることを利用して、水による災害を防ぐ工夫がされていることに気付くことができるようにする。

#### 「ハザードマップ」を取り上げたことによる効果



出典：大垣市洪水ハザードマップ

私の家の近くでも、大雨が降ると浸水する危険な場所があることが分かりました。浸水しそうになったら、北の方のこの辺りに逃げると安全だと分かったので、家族に話してみようと思います。

#### 教師の指導のポイント

・児童一人一人が災害を自分事として捉え、より安全な避難について考えることができるようにハザードマップを取り上げる。なお、ハザードマップを取り上げる際には、「児童」に配慮する。

「理科の見方・考え方」を、日常生活などにおける問題発見・解決の場面で働かせることができるようにする。

・自宅周辺やよく訪れる地域のハザードマップを、一人一台端末を活用して確認する。  
・ハザードマップで浸水する可能性が高い場所を確認する。  
・河川が氾濫したときに、どういう所に避難するとよいのかを考える。  
・ハザードマップに示されている浸水区域まで行き、その場所の様子や地面の傾きなどを確認する。

・実践の具体的な様子が分かるように、児童生徒の発言と写真を掲載しています。



1 本時のねらい (3/4時)

- ・鏡ではね返した日光を当てる実験を通して、はね返した日光を重ねるほど、日光を当てた部分の明るさや温度の変化が大きくなることに気づき、実験前後の差異点を根拠にして考えを表現することができる。

2 評価規準

- ・はね返した日光を重ねるほど、日光を当てた部分の明るさと温度の変化が大きくなることを、差異点を根拠にして考えを表現している。(思考・判断・表現)

3 防災教育の充実に向けて

(1) 防災教育を通して育成したい資質・能力及び本時の実践

	実践例
防災教育を通して育成したい資質・能力	<b>学びに向かう力・人間性等</b> 防災に関する様々な課題に関心をもち、主体的に自他の安全な生活を実現しようとしたり、安全で安心な社会づくりに貢献しようとしたりする態度を身に付けていること。
防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえた本時の実践	災害時には、ガスや電気などのライフラインが途絶えてしまう可能性があることを知り、身近な物を使ってできることを考える。

(2) 教科等横断的な視点及び家庭や地域との連携

	実践例
教科等横断的な視点	<b>問題発見・解決能力</b> 日光を重ねるほど、日光を当てた部分の温度変化が大きくなるのかという問題を見だし、結果を予想し、結果を基に考察し、問題を解決する力を身に付ける。
家庭や地域との連携	家庭の非常用持ち出し袋の中身に、必要な物が揃っているか確認する。

4 学習展開

過程	主な活動												
課題の設定	・日光には明るくしたり、物をあたためる働きがあることから、日光でより明るくしたり、あたためたりすることができるか考える。												
予想・仮説	<b>鏡ではね返した日光を重ねると、明るさや温度はどう変わるのだろう。</b> ・日光に当たるとあたたかいから重ねたら2つ分になってより温度が上がると思う。 ・同じ太陽をはね返しているから温度や明るさは変わらないと思う。 仮説：鏡ではね返した日光を重ねると、日光はまぶしくてあたたかいから、より明るく、温度も上がるはず。												
実験	<b>【実験】</b> 鏡の枚数を変えて3分ごとに温度を測定する。 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>鏡</td> <td>0枚</td> <td>1枚</td> <td>3枚</td> </tr> <tr> <td>明るさ</td> <td>暗い</td> <td>明るい</td> <td>1枚より明るい</td> </tr> <tr> <td>温度</td> <td>16℃</td> <td>20℃</td> <td>31℃</td> </tr> </table>	鏡	0枚	1枚	3枚	明るさ	暗い	明るい	1枚より明るい	温度	16℃	20℃	31℃
鏡	0枚	1枚	3枚										
明るさ	暗い	明るい	1枚より明るい										
温度	16℃	20℃	31℃										
結果の処理 考察	・3枚の時のほうが、温度の上がり方が早かった。 ・鏡の枚数が増えるほど、明るさも温度も変化が大きくなっていった。												
まとめ	<b>まとめ：鏡ではね返した日光を重ねると、より明るく、温度が上がる。</b>												
防災につなげる	◎「はね返した日光の働きを使って、何かに役立てることはできないか。」を問う。 ・災害時にはガスや電気が止まってしまうことがあることを伝え、万が一の時に役立つことがあることに気付くことができるように、防災の視点で発問する。 ・ソーラークッカーを紹介し、災害時に役立ち、備えることができる身近な物を問う。 ・「もっと日光を集めればあつくなる。」という発言を取り上げ、次の問題につなげる。												





# 日光の働きを利用した道具から

## 災害時における備えの必要性に気付く学習

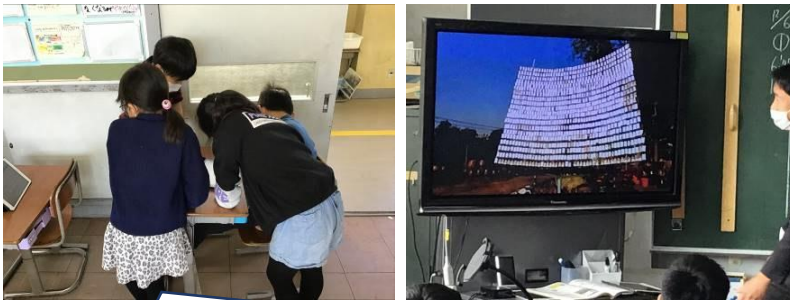
第3学年

光と音の性質

こんな子どもたちの姿が生まれました！

- ・日光の働きを学び、その働きを利用した道具から、災害時に生活するために何を準備しておくとよいか考えることで、備えの必要性に気付くことができました。

### 鏡ではね返した日光をさらに重ねた場合について考えたことによる効果



はね返した日光を重ねれば重ねるほど、温度はもっと高くなると思います。たくさんの鏡があれば、調理ができるくらい熱くなるはずです。だから、日光には物をあたためる働きがあると分かりました。

「理科の見方・考え方」を問題解決の場面で働かせることができるようにする。

- ・鏡を使ってはね返した日光を重ねた数と温度変化を整理し、量的・関係的に考察する。
- ・鏡を使って調理するお店を紹介し、日光の働きを生活に役立てることができないか考える。

### 教師の指導のポイント

- ・「はね返した日光を重ねるほど、日光が当たっているところの温度はどうなるか。」と問いかけ、鏡ではね返した日光を重ねた数と温度変化を関係付けて考察できるようにする。

### 日光の働きを利用した道具と災害時とのつながりを取り上げたことによる効果



・温泉卵ができたことから、日光の力で本当に物をあたためることができることが分かった。この方法なら、災害の時に火がなくても過ごせそうだな。でも、非常用バッグに鏡を入れるより、ライターを準備しておくほうが良いかもしれない。災害の時の備えについて家族と話してみます。

理科の学びが日常生活で生かされていることを実感し、防災への関心を高めることができるようにする。

- ・「ソーラークッカー」を紹介し、実際に太陽の光でできた温泉卵を見て、日光の働きを利用していることに気付く。
- ・過去の震災の状況を取り上げ、ガスなどのライフラインが止まってしまったらどうするか考える。
- ・非常用持ち出し袋の中身の例を挙げ、災害時における備えの必要性に気付く。

### 教師の指導のポイント

- ・日光の働きが生活に役立つことから、震災で想定されるライフラインの寸断について取り上げ、そのために何を備えておくべきかを問いかけたり、家庭で非常用持ち出し袋について話すように伝えたりすることで、災害時における備えの必要性について気付くとともに、防災への関心を高めることができるようにする。

小学校 第4学年 社会 「自然災害からくらしを守る ～地震からくらしを守る～」

1 本時のねらい（1／7時）

- ・地震発生メカニズムや地震・津波被害の様子を調べることを通して、自分たちの防災・減災の取組の現状に関心を持ち、自分たちができることについて考えようとする事ができる。

2 評価規準

- ・地震発生メカニズムや、過去に発生した地域の自然災害などに着目して、問いを見いだし、災害から人々を守る活動について考え、自分たちにできることを考えようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

3 防災教育の充実に向けて


(1) 防災教育を通して育成したい資質・能力及び本時の実践

	実践例
防災教育を通して育成したい資質・能力	<b>学びに向かう力、人間性等</b> 防災・減災に関する様々な課題に関心を持ち、自他の安全な生活をしようとしたり、安心・安全な社会づくりに貢献しようとしたりする主体的な態度を身に付けていること。
防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえた本時の実践	地震発生メカニズムや地震・津波被害の様子を調べることを通して、自分たちの防災・減災の取組の現状に関心を持ち、自分たちにできることについて考えようという意欲をもつ。

(2) 教科等横断的な視点及び家庭や地域との連携

	実践例
教科等横断的な視点	<b>情報活用能力</b> ・一人一台端末を活用して、地震や津波災害の様子等を調べ、協働学習支援ツールで共有した情報を基に考えを広げ、深める。 ・大型提示装置に情報を示し、根拠を明確にして説明する。
家庭や地域との連携	家庭での地震対策について調査し、考えたことを家庭で実践する。

4 学習展開

過程	主な活動
問題の確認 調査・共有	<b>地震はどのようにして起こり、どのような被害があるのだろうか。</b> ・地震の起こり方（海溝型・活断層型）について調べる。 ・地震によっておこる被害について調べる。 ・岐阜県には活断層がたくさんあることを知る。 ・地震による被害を減らすために何が出来るか考える。
全体交流	 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震による被害には、土砂くずれや地割れなどが起こることで、電柱が倒れ、ガス管が壊れることがある。だから、地震が起きたときは、こうした場所に近づかないようにしたい。</li> <li>・家の中にいても、ガラスが割れたり、家具が倒れたりする可能性がある。だから、日頃から危険な場所を確認したい。また、日頃からスリッパをはいて生活したり、家具が倒れないように支えをつけたりしたい。</li> </ul>
まとめ	地震は、岐阜県内でも起こる可能性があり、大きな被害が出るかもしれない。被害を減らすために、今日考えたことを、まずは家でやっていきたい。そして、家族ともう一度話し合っていきたい。



# 「防災副読本」の活用による

## 単元導入における児童の課題意識を高める学習

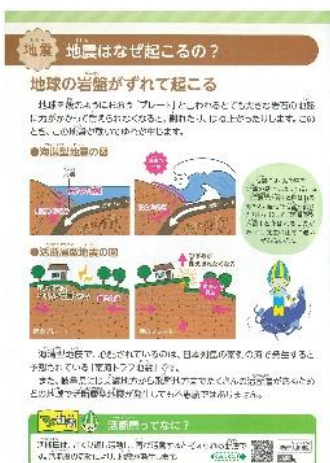
第4学年

自然災害からくらしを守る

こんな子どもたちの姿が生まれました！

- ・ 図や写真を基に、地震発生メカニズムや地震による被害を確認したことで、地震発生の原因や県内での被害についての理解が深まり、自然災害に対する問題意識が高まりました。

### 防災副読本の活用による効果①



地震の起こり方には海溝型と活断層型の2つがあることが分かりました。また、岐阜県には活断層がたくさんあるため、岐阜県でも大きな地震がいつ起こってもおかしくないことが分かりました。



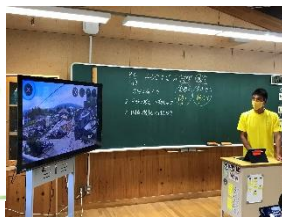
岐阜県の事例を取り扱うことで、「地震」が岐阜県に住む自分にも深く関わりのあることだと認識できるようにする。

- ・ 地震の起こる原因（海溝型、活断層型）について調べる。
- ・ 岐阜県で起こりやすい地震は海溝型、活断層型どちらなのかを考える。
- ・ 岐阜県で過去に起こった活断層型の地震とその被害について知る。

### 教師の指導のポイント

- ・ 岐阜県は、海溝型の地震の震源域からは離れていて、津波の被害も少ないことが予想されるが、活断層が多くあることや、濃尾地震のように過去に大きな被害となった地震が起きていることを伝え、地震について自分のこととして捉えられるようにする。

### 防災副読本の活用による効果②



地震が起こると、建物が壊れたり土砂崩れが発生したりと、たくさんの被害が出る事が分かりました。岐阜県には海はないけれど、海に遊びに行くことがあるから、津波についても知っておく必要があると思いました。

身近な事例を通して地震の被害について確認することで、防災や減災について考える意欲をもてるようにする。

- ・ 地震によって起こる被害にはどのようなものがあるか調べる。
- ・ 住んでいる地域で多い被害は何かを話し合う。
- ・ 岐阜県では津波の被害は出にくいですが、津波について学ぶことの必要性を知り、津波の被害について考える。

### 教師の指導のポイント

- ・ 地震の被害について調べる中で、岐阜県は地理的な理由から津波による被害は出にくいと考えられるが、津波やその被害について学習する必要性について確認し、津波被害についても調べられるようにする。



小学校 第6学年 社会 「震災復興の願いを実現する政治」

1 本時のねらい（8／8時）

・南海トラフ地震からの復旧・復興への願いを実現するためには、人々の多様な願いを取りまとめていくことが大切だということに気付き、自分が一番大切にしたい願いを表現することができる。

2 評価規準

・多様な願いを取りまとめていくことの大切さに気付き、自分が一番大切にしたい願いを表現している。（思考・判断・表現）

3 防災教育の充実に向けて

（1）防災教育を通して育成したい資質・能力及び本時の実践

	実践例
防災教育を通して育成したい資質・能力	<u>思考力, 判断力, 表現力等</u> 自らの安全の状況を適切に評価するとともに、災害時に必要な情報を収集し、安全な生活を実現するために何が必要か適切に意思決定し、行動するために必要な力を身に付けていること。
防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえた本時の実践	一人一人の願いをまとめていく中で、多様な願いがあることに気付き、復旧・復興のための願いについて多角的に考える。

（2）教科等横断的な視点及び家庭や地域との連携

	実践例
教科等横断的な視点	<u>問題発見・解決能力</u> 総合的な学習の時間に実施する「防災活動」と社会科の学習とを関わらせて、災害時に考えられる多様な願いを取りまとめ、自分なりの最善の取組について考え、表現する。
家庭や地域との連携	地域の防災活動に参加し、避難所での生活の仕方や応急措置の方法を学んだことを家族と共有する。

4 学習展開

過程	主な活動
課題の確認	大垣市民として、南海トラフ地震からの復旧・復興に向けて、どのような願いをもちたいか。
内容の想起 全体交流	○既習資料から前時までの学習を想起し、課題解決への見通しをもつ。 ○その願いがよいと考えた理由も入れて発表する。 ・東日本大震災でもまずは、復旧にお金をかけていた。ガスや電気、水といったライフラインを整備したり、全半壊合わせて18,000棟の建物を直して早めに住めるようにしたりしてほしい。 ・気仙沼では、日本一のカツオの水揚げを震災後3か月でできるようにしていた。大垣市は升の生産量が日本一だから、升づくりにお金をかけてほしい。 ・大垣まつりは300年以上の歴史があり、ユネスコ無形文化遺産に登録されている。大垣まつりは大垣市のシンボルだから、大垣まつりの再開を復興のシンボルにできるようにしてほしい。
深めの発問	○多様な願いがある中で、どのように願いを実現させていくとよいのか考える。 ・優先順位をつけて、なるべく願いに応えられるようにしていくとよい。 ・少しでも多くの人々が満足できるように、市民と行政が意見交換をするとよい。
まとめ	○大垣市役所の人話を聞いて、自分が考える一番の願いについて考える。 ・市役所からは、市民の意見を尊重し、なるべく多くの人に満足してもらえるように努力している。大きな地震が起きたら、復興のシンボルとして大垣まつりを復活させられるようにしてほしいという願いをもちたいと思った。
事後の活動	（上記の授業を受けて、11月に地域の防災訓練を行う。）

# 社会的事象を自分事として捉え、社会へ

## 働きかけることができる事柄を考える学習

第6学年 | 震災復興の願いを実現する政治

こんな子どもたちの姿が生まれました！

- ・南海トラフ地震が発生したと仮定して、大垣市の復興に向けての自分なりの願いや避難所での生活について考えたことで、学習内容を自分事として捉えることができました。

### 自分事として捉えるために自分たちのまち(大垣市)を取り上げたことによる効果



気仙沼市では、カツオの水揚げ量日本一を復興のシンボルとして取り組んでいた。大垣市といえば自分は「大垣まつり」だと思う。大垣まつりを開催することで、「また、頑張ろう！」という気持ちにもなると思うから、開催できるようにお金を使ってもらいたいな。

**社会的事象の見方・考え方を働かせたり、習得した知識を活用したりして、まちの防災への取組や自分ができることを考えることができるようにする。**

- ・南海トラフ地震が発生したときの大垣市の被害状況を把握し、大垣市の復旧・復興のための自分なりの願いを考える。
- ・多様な願いがある中で、市と市民が意見交換をして優先順位を決めていくことが大切だと気付く。



自分は最初、「復旧」が大事だと思っていた。でも仲間の意見を聞いたら、「大垣市のよさ」を知ること必要だと感じた。それは、大垣市を知らないといけないから。さらに、地域の防災訓練に参加することで、自分にできそうなことが分かりそう。11月に地域の防災訓練があるので学び、伝えたい。

### 教師の指導のポイント

- ・南海トラフ地震による大垣市の被害想定を共通理解したり、気仙沼市の復興に向けての取組と関わらせたりすることで、気仙沼市の取組と関わらせながら、大垣市への自分なりの願いを考えられるようにする。

### 自分事として捉えるために避難所での生活について考えることによる効果(上の授業を受けての地域行事)



トイレを作るのは難しいと思っていた。でも実際に作ってみると自分たちでも簡単にできた。やっぱり体験することは大事だと感じた。避難所にトイレは絶対に必要だから、作る時は手伝いたいし、トイレを含めた必要なものを早急に準備してもらえるようお願いしたいな。

**簡易トイレの組み立て方や救護用の応急担架の作り方などを体験することで、自分たちが実践可能なことを考えることができるようにする。**

- ・簡易トイレや応急担架を地域の防災士や中学生と協力して作り、それらの必要性を理解する。
- ・体験を通して、避難所において自分たちが実践可能なことを考えたり、避難所における市へ要望したい自分なりの願いについて考えたりする。



応急用担架を作ること自体は、作り方さえ分かれば難しくなかった。しかし、中学生の皆さんから教わった「振動があると体に影響があるということ」は、実際に意識しても難しかった。振動のことは知らなかったけど、確かに骨折している人にとっては痛いと思うので、もっと相手の立場で考えられるようになりたい。

### 教師の指導のポイント

- ・社会科の授業を想起し、防災士に教わりながら体験することで、災害が起きた時には、地域との関わりを増やし、みんなで協力しなければならないことに気付き、自分ができることについて考えられるようにする。

1 本時のねらい（1／2時）

- ・日常生活の中で、防災に関する様々な問題を見いだして課題を設定し、安全な生活に向けて自分にできることを考え、計画を立てることができる。

2 評価規準

- ・日常生活における防災に関する問題点に気づき、解決のために何ができるのかを考え、計画を工夫している。（思考・判断・表現）

3 防災教育の充実に向けて

（1）防災教育を通して育成したい資質・能力及び本時の実践

	実践例
防災教育を通して育成したい資質・能力	<u>思考力, 判断力, 表現力等</u> 各家庭の防災対策に対する問題を見だし、安全な生活を実現するためには何が必要であるかを考え、自分にできることから工夫して取り組もうとする力を身に付けていること。
防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえた本時の実践	家庭の防災対策について見直し、自然災害に対して、どんな備えをしておく必要があるのかを考え、計画を立てる。

（2）教科等横断的な視点及び家庭や地域との連携

	実践例
教科等横断的な視点	<u>情報活用能力</u> 一人一台端末を活用したり、副読本（防災ノート）を活用したりして、家庭でできる防災対策の情報を収集する。
家庭や地域との連携	家庭の防災対策について計画を立て、各家庭で実践する。

4 学習展開

過程	主な活動						
生活の課題の発見	○自然災害に備えて、家庭で行っていることを事前に調べる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">日常生活における防災に関する問題を、これまでの家庭科で学習したことを生かして解決する防災対策について考えよう。</div>						
解決方法の検討と計画	○家庭に必要な防災の取組について考え、計画する。 ・自分の家でできていないことを具体的に挙げる。 ・衣食住の3つの観点で分類していく。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; padding: 2px;">&lt;衣&gt;</td> <td style="padding: 2px;">・非常用持ち出し袋を作りたい。 ・防災頭巾を作りたい。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">&lt;食&gt;</td> <td style="padding: 2px;">・どんなものを非常食として備えたらよいかを調べて、非常食をそろえたい。 ・幼児に合う非常食もあるのだろうか。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">&lt;住&gt;</td> <td style="padding: 2px;">・家具を固定したい。 ・戸の周りに物があるから、整理整頓をしたい。</td> </tr> </table>	<衣>	・非常用持ち出し袋を作りたい。 ・防災頭巾を作りたい。	<食>	・どんなものを非常食として備えたらよいかを調べて、非常食をそろえたい。 ・幼児に合う非常食もあるのだろうか。	<住>	・家具を固定したい。 ・戸の周りに物があるから、整理整頓をしたい。
<衣>	・非常用持ち出し袋を作りたい。 ・防災頭巾を作りたい。						
<食>	・どんなものを非常食として備えたらよいかを調べて、非常食をそろえたい。 ・幼児に合う非常食もあるのだろうか。						
<住>	・家具を固定したい。 ・戸の周りに物があるから、整理整頓をしたい。						
計画の評価・改善 家庭・地域での実践	○計画を見直し、工夫することを考える。 【家庭学習】計画したことを各自実践する。						



# 家庭

## 日常生活における防災に関する問題点を見つけ出し、 自分にできることを考える学習

第6学年

家族・家庭生活についての課題と実践

こんな子どもたちの姿が生まれました!

- ・家庭における災害に対する備えについて学ぶことは、防災について親子で考えたり、話し合ったりする機会となりました。そして、防災に関することは、自分だけでなく、家族みんなまで意識して一緒に考えていかなければならないと気付きました。

### 「防災への備え」に関するアンケート調査を通して高まる防災意識

	○ ×	くわしく
非常用持ち出しバッグ	△	マスクやティッシュなど最低限のものを入れたバッグを。人数分必要数。不備はないとは思いますが。
防災ずきん		
非常食	○	水のストック、汁かけ食品
家具の固定		
ローリングストック	○	たばこのローリングストック
ローリングストック	○	近頃のローリングストック

(3) 今回の学習では、5、6年生の2年間の学習で身に付けた知識や技能をいかして、非常時に備えることに挑戦します。一人一人の考えや身に付けた力、家庭の状況に合わせて取り組みます。「何に取り組んでほしいのか」「どんなことならできそうなのか」をお家の人に聞いてください。

例：非常用持ち出し袋がほしいので、袋をつくってほしい。  
持ち出しバッグの中身を見習ってほしい。  
ローリングストックが可能な食料のみで倉庫から取り出せるものを高めてほしい。  
最近、震災によるものも増えているので再確認。(学校にいる時、家の様子を確認してほしい)。

防災頭巾の話聞いて、自分の家にはないので、作ってみようと思った。

ローリングストックという言葉初めて聞いたけれど、自分の家でも賞味期限が切れていないかを確認しながら保存していこうと思った。

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、生活をよりよくしようと工夫することができる。

- ・自然災害への備えについて各家庭で調査することで、防災に対する意識を高め、その必要性を感じ取ることができるようにする。
- ・家庭で調査してきたことを交流することで、自分の家庭にも取り入れてみようという意欲がもてるようにする。

### 教師の指導のポイント

- ・防災に対する取組の必要性を感じることができるよう、災害の備えについて各家庭で調査を実施する。さらに、その調査した内容を交流することで、他の家庭の工夫を学ぶことができるようにする。

### 自分の家庭でできることを考えていくことで高まる防災意識



「食」については、非常食の中で、自分でも簡単に作れるものは何かを調べて、家の人と相談したい。自分でできそうなことに取り組み、災害の時に、少しでも役に立てるようにしたいと思った。

家庭での実践を通して、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を高めることができるようにする。

- ・自分にもできる家庭での防災の取組について、「衣生活」「食生活」「住生活」に分類しながら考えていく。
- ・仲間の考えも参考にしながら、自分にできる取組を再検討し、家族にも相談をしながら、取り組む内容を決定する。

### 教師の指導のポイント

- ・防災副読本 (PII) の「地震から命を守るには」や、防災頭巾の作品例、ローリングストック等の実践例を紹介することで、防災対策を見直そうという意識を高める。

1 本時のねらい（3／4時）

- ・毎日を健康に過ごすには、体の清潔を保つことなどが必要であることを理解できるようにする。

2 評価規準

- ・毎日を健康に過ごすには、体の清潔を保つことなどが必要であることを話したり、書いたりしている。  
(知識・技能)

3 防災教育の充実に向けて



(1) 防災教育を通して育成したい資質・能力及び本時の実践

	実践例
防災教育を通して育成したい資質・能力	<b>知識及び技能</b> 災害時の支援物資には、飲料水や食料だけでなく、多くの衛生用品が送られてくることから、災害時であっても、体を清潔に保ち、健康な生活を送るために必要な知識及び技能を身に付けていること。
防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえた本時の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時、避難場所に送られてくる支援物資には、どんなものがあるのかを確認する。</li> <li>・体の清潔を保つために、災害時に備えて、衛生用品を準備しておくことよいことに気付くことができるようにする。</li> </ul>

(2) 教科等横断的な視点及び家庭や地域との連携

	実践例
教科等横断的な視点	健康な生活を送るために、日常生活の中で手を正しく洗ったり、毎日着替えたりする習慣を身に付ける。
家庭や地域との連携	災害時に備えて非常用持ち出し袋の準備をしたり、中身を確認したりすることの大切さを保護者と共有する。

4 学習展開

過程	主な活動
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から自分が行っていることを振り返る。</li> </ul>
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害が起きて避難した時の状況をイメージし、困ることはないかを考える。</li> <li>・避難場所に送られてくる支援物資には、どんなものがあるかを予想し、食料や飲料水だけでなく、トイレトペーパーやウェットティッシュなどの衛生用品も多いことに気付く。</li> </ul> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>なぜ毎日の生活で体を清潔にすることは、必要なのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手や体を洗う理由を考える。【実験】 水でぬらした脱脂綿で手を十分に拭き、汚れを調べる。 脱脂綿の汚れと教科書の実験結果から、気付いたことを交流する。</li> <li>・下着や靴下を毎日取り替える理由を考える。 教科書の写真を見比べて、1日使用した下着や靴下がどの程度汚れているのか確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな時でも（災害時でも）健康に過ごせるようにするにはどうするとよいだろう。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見た目はきれいでも、手洗いや消毒を続けたい。</li> <li>・汚れたものをそのままにせず、毎日取り替えたい。</li> <li>・災害が起きた時でも清潔に保つために、ウェットティッシュや消毒などを用意し、自分の健康を自分で守りたい。</li> </ul> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 5px;">  </div> </div>
終末	<p>体や下着などの衣服には、たくさんの菌が付き、病気の原因となることがある。 ➡健康に過ごすには、体を清潔に保つことが必要。</p>

# 災害時でも自分の健康を

## 自分で守ることの大切さを実感する学習

第3学年

健康な生活

### こんな子どもたちの姿が生まれました！

- ・健康に過ごすには、体を清潔に保つことが必要なこと、支援物資に多くの衛生用品があることを知り、どんな時でも、体や衣服を清潔にし、自分の健康を自分で守ろうとする意識が高まりました。

### 支援物資から体の清潔と健康との関わりを考える

水道の水が使える状況ではなかったため飲み水、手洗い、歯磨きにこの水を利用していた。

トイレットペーパー、ティッシュペーパー、ウェットティッシュ、ガーゼ等もたくさん支援物資として届いた。



清潔のために日頃から自分で行っていることを振り返ったり、災害時にどんな支援物資が届いたのかを考えたりすることを通して、体の清潔が健康との関わりが深いことに気付けるようにする。

- ・ペットボトルの水を手洗いや歯磨きにも使うとは思いませんでした。
- ・歯磨きは大切だけど、災害の時、歯磨きをする余裕はあるのかなと思いました。
- ・食べ物や水の支援が多いと思ったけれど、衛生用品が多く送られてくるのはどうしてなのかなと思いました。

- ・清潔のために日頃から自分が行っていることを振り返る。
- ・もし災害が起きて、避難しなければならぬ時に困ることはないかを考える。また、支援物資としてどんな物が送られてくるのかを予想する。

### 教師の指導のポイント

- ・避難場所での生活を写真で提示したり、状況を説明したりして、子どもたちが災害が起きた時の状況を具体的にイメージすることができるようにする。

### 災害が起きた時でも健康に過ごすために自分ができることを考える



実験をしたり、動画や写真を活用したりして、見た目がきれいでも、実際は目に見えない汚れがたくさんあることを理解する。

- ・食べる前には、手を洗い、きれいなハンカチを使うことが大切だと思いました。災害が起きた時、水がなければ、ウェットティッシュなど準備できるものでできるだけ手をきれいにしてから食べたいと思いました。
- ・災害が起きても、きちんと手洗いができるように、水などを用意しておくことが大切だと思いました。
- ・どんな時も自分の体を自分で清潔にしていきたいと思いました。

- ・水でぬらした脱脂綿で手をよく拭き、汚れを調べる。
- ・手の汚れ、下着やくつ下の汚れを調べる2つの実験動画を見て、きれいに見えても、汚れがたくさんあることに気付く。
- ・体や衣服などを清潔に保つことが必要であることを理解し、災害時でも健康に過ごすにはどうするとよいかを考える。

### 教師の指導のポイント

- ・健康に過ごすためには、体や衣服の清潔が健康に必要であり、災害時であっても自分の健康は自分で守っていく大切さに気付けるようにする。
- ・家庭の非常用持ち出し袋を準備したり、中身を確認したりすることの大切さについても伝える。



小学校 第4学年 特別の教科 道徳 B(7) 感謝

主題名「支えのありがたさ」

教材名「神戸のふっこうは、ぼくらの手で」(光村図書)

1 本時のねらい

- ・多くの人の支えによって生活できていることに気付き、支えてくれる人々に対して感謝の気持ちをもとうとする心情を育てる。

2 評価の視点

- ・身近な人々が自分の生活を支えていることに気付いたり、どんな思いで活動しているかを理解したりすることを通して、日常生活を支えてくれる人への感謝の気持ちの大切さを考えている。

3 防災教育の充実に向けて

(1) 防災教育を通して育成したい資質・能力及び本時の実践

	内容
防災教育を通して育成したい資質・能力	<u>学びに向かう力、人間性等</u> 防災に関する様々な課題に関心を持ち、主体的に自他の安全な生活を実現しようとしたり、安全で安心な社会づくりに貢献しようとしたりする態度を身に付けていること。
防災教育を通して育成した資質・能力を踏まえた本時の実践	より多くの人々が、自分たちの生活を支えていることを知るとともに、だからこそ自分にできることをすることも、感謝の気持ちの一つであると考えようとする。

(2) 他の教育活動との関連及び家庭や地域との連携

	内容
他の教育活動との関連	社会科における「防災」の学習で、災害の際には、様々な人々が、被災地の生活を支えていることに気付くことができる。
家庭や地域との連携	自分の住んでいる地区でも、災害時に利用する避難経路や避難場所があることを理解したり、日頃から多くの人々が自分の生活を支えてくれていることに気付いたりする。

4 学習展開

過程	主な活動
導入 展開前段	1 震災時の写真を提示し、当時の状況を知らせ、教材へと引き込む。 2 道徳的価値について考える。 ○教材について感想を問う。 ○大山先生やボランティアの方、1年生の女の子は、どのような思いで働いていたのだろうか。 ◎災害時に働く人を見たり、1年生の女の子から牛乳をもらったりした「ぼく」は、どんな気持ちになったのだろうか。 ○大山先生たちのように、働く人がいてくれたことを、「ぼく」はどう感じていたのだろうか。
展開後段	3 支えのありがたさについて考える。 ○被災地においてボランティアの経験をもつ方の話を聞く。 ○本時のまとめを書く。
終末	災害の時だけでなく、毎日の生活でも支えてくれている人がいます。例えば、見守り隊の方は、朝からぼくたちの安全を考えて見守っていてくれて、とてもありがたいです。だからこそお礼を言ったり、挨拶をしたりしたいと思います。

# 日常から支えてくださる方々の存在や思いへの 気づきが、防災意識へとつながる学習

特別の教科  
道徳

主題名「支えのありがたさ」B(7) 感謝  
第4学年 教材名「神戸のふっこうは、ぼくらの手で」  
(光村図書)

## こんな子どもたちの姿が生まれました!

- ・災害時だけでなく、日常生活において、自分自身の生活を支えてくれる人々の存在に気づき、感謝の思いをもつことができました。

## 「防災」に関わる教材を扱う効果



教材を通して、非日常において生活を支えようとする立場と、それを受ける立場の双方の思いを考えると、支えに対する感謝の思いの大切さを考えることができるようにする。

- ・避難所で自ら働こうとする思いを考える。
- ・働く人の様子を見た「主人公」の思いの変化を考える。
- ・働く人の存在について考える。

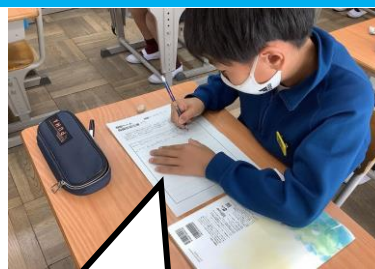
・少しでもこの町を元気にしたいから、少しでもみんなのためにできることをしようという思いで、がんばっていると思いました。

・こんなに支えてくれている人たちがいるんだということに気付いた。だから、ありがたいなという思いやぼくもやってみようという気持ちになりました。

## 教師の指導のポイント

- ・本教材は、「勤労」に関わる価値観も表れるため、その「自分もみんなのために。」という主人公の思いの原動力になった「働く人の存在」や「感謝の思い」に気付けるよう発問構成や問い返しを工夫する。

## 災害時にボランティアとして働いた方の話を聞く効果



非日常の場面で、働く人の思いを知るとともに、日常生活を振り返り、自分たちを支えてくれる人の存在やその思いを考えることができるようにする。

- ・災害時にボランティアとして働いた方の話から、実際の現場での思いに気付く。
- ・日常生活においても、いろんな思いで自分たちを支えてくれる人の存在を思い起こして考える。

・避難所にいる方に、お風呂のチケットを渡した時、「こんなにいるか」と投げ返されたのはつらかった。  
・帰る時、手を合わせてお辞儀をされた時、やってよかったと思ったよ。

・いつも登下校の時に立っている見守り隊の方がいて、その人は僕たちの安全を思ってやってくれているから、ありがたいと思います。

## 教師の指導のポイント

- ・非日常での防災意識は、日常生活でのつながりが大切であるので、日頃から自分たちの生活を支えてくれる人の存在やその思いを想起させ、そういう方々への感謝の思いを、防災意識と関連付けられるようにする。
- ・ゲストティーチャーとして、過去に被災された方や市町村の防災課、木曾川上流河川事務所への依頼が考えられる。

1 本時のねらい（55／70時）

- ・「努力しても土砂災害を防ぎきることはできない。」という前時までのまとめから生まれた新たな課題「よりよい避難行動が必要である」の解決に向けて、収集した情報を根拠にして、避難バッグに準備する物について考えたり、仲間と比較したりする活動を通して、一人一人に応じた生活必需品を入れることの重要性を見いだすことができる。

2 評価規準

- ・一人一人に応じた避難バッグを備える必要性を見いだしている。（思考・判断・表現）

3 防災教育の充実に向けて


(1) 防災教育を通して育成したい資質・能力及び本時の実践

	実践例
防災教育を通して育成したい資質・能力	<b>思考力、判断力、表現力等</b> 自らの安全の状況を適切に評価するとともに、必要な情報を収集し、安全な生活を実現するために何が必要かを考え、適切に意思決定し、行動するために必要な力を身に付けていること。
防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえた本時の実践	一人一人のニーズに応じた生活必需品を入れて避難バッグを備えておくことが重要であることを見いだす。

(2) 教科等横断的な視点及び家庭や地域との連携

	実践例
教科等横断的な視点	<b>健康・安全・食に関する力</b> （社会科「自然災害からくらしを守る」） 地域の人々は、想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解する。
家庭や地域との連携	テーマ「奥飛騨防災パラダイス！計画」を実現するために、災害の備えについて、ポスター掲示や新聞折り込み、地域の行事を通して発信する。

4 学習展開

過程	主な活動
導入	〔前時までに〕地域の地形の特徴から、努力しても土砂災害を防ぎきることはできない。よりよい避難行動や各自の備えが必要である。 ↓ ○保育園や地域の人、家族にインタビューし、避難生活に必要な物について、様々な年代から情報収集してきたことを確認する。 <b>避難所で困らない世代に合わせた避難バッグの中身を考えよう。</b>
追究1	○子ども・大人・高齢者のチームに分かれ、必要な物とその理由を整理する。（クラゲチャート）
追究2	○3つのチームのクラゲチャートを比較し、避難バッグに、どんなものを入れるとよいか考察する。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・「高齢者は補聴器が必要でも子どもにはいらない。」というように、人によって必要なものは違うので、自分に合った自分専用の避難バッグを用意しないといけないと思いました。</li> <li>・同じ子どもでも、兄、僕、弟では必要なものが違うので、一人一人に合ったバッグを用意しなければいけないと思いました。</li> </ul>
終末	○一人一人に合わせて、必要なものを入れた避難バッグを備えるとよいことを家族や地域の人たちに知らせたいという願いをもつ。



# 土砂災害時に自分の命を守る

総合的な  
学習の時間

## 奥飛騨温泉郷の安心・安全を考える学習

第4学年

奥飛騨防災パラダイス！計画

こんな子どもたちの姿が生まれました！

・探究的な見方・考え方を働かせ、根拠を明らかにしながら課題を解決し、安全な生活を実現しようとしたり、地域の防災に参画しようとしたりする態度が育まれました。

積算雨量調査や砂防堰堤見学、DIG 訓練で情報収集し、整理・分析したことによる効果



砂防堰堤の見学やDIG訓練で得た情報を関連付け、努力をしても土砂災害は起こることに気づき、命を守る避難行動が重要だと考えることができるようにする。

- ・砂防工事が行われていても土砂災害が起きた理由を、積算雨量・砂防の実態、ハザードマップを根拠に整理する。
- ・気象条件と地形条件を踏まえて、どこに避難するとよいか分析する。

砂防（1基）を造るのに5年もかかる。完成しても2、3日の大雨で、堰堤は土砂で埋まってしまう。砂防があるからと、安心してはいけない。だから、奥飛騨温泉郷の多くの地区が土砂災害危険区域に指定されている。努力しても災害を防ぎきることはできないので、よりよい避難行動がとれるようにしないとけない。

### 教師の指導のポイント

・土砂崩れが発生する積算雨量、砂防は数日の大雨で機能しなくなること、児童の自宅近くには安全な場所がないことの3点を、相互に関連付けて考えることができるようにする。

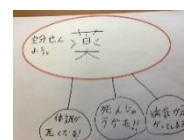
避難所、防災倉庫調査・インタビューで情報収集し、整理・分析したことによる効果



調査やインタビューから得た情報を根拠に、一人一人に応じた避難バッグの必要性を家族や地域に伝えたいという思いをもてるようにする。

- ・避難所での必需品は何か、世代別で考え、その理由を小グループで交流する。

<クラゲチャート>



- ・世代別の必需品を比較し、自分に合った避難バッグが必要であることを気付く。

防災倉庫には、物があまり備蓄されていない。避難バッグに何を入れるとよいか、考えていない人も多い。これでは、土砂災害が起きた時に命を守ることができない。必要な薬などを入れた自分専用の避難バッグを用意するとよいことを家族や地域の人に伝えたい。

### 教師の指導のポイント

・必需品について、世代別のクラゲチャートを取り上げ、比較することで、世代や個によって必要なものが違うことに気付けるようにする。



1 本時のねらい（15／15時）

- ・プリンとカステラの揺れ方の違いを比較する実験を行い、菓子のやわらかさによる揺れ方の違いを地盤の性質と関係付けて考察することを通して、やわらかい地盤ほど揺れが大きいことを見いだすことができる。

2 評価規準

- ・プリンとカステラの揺れ方の違いから、やわらかい地盤ほど揺れが大きいことを見いだして表現している。  
(思考・判断・表現)

3 防災教育の充実に向けて


(1) 防災教育を通して育成したい資質・能力及び本時の実践

	実践例
防災教育を通して育成したい資質・能力	<b>思考力, 判断力, 表現力等</b> 自らの安全の状況を適切に評価するとともに, 必要な情報を収集し, 安全な生活を実現するために何が必要かを考え, 適切に意思決定し, 行動するために必要な力を身に付けていること。
防災教育を通して育成したい資質・能力及び本時の実践	家を建てる時に, 本時の学びを生かして地盤調査を行ったり, 免震構造を組み込んだりする理由を考える。

(2) 教科等横断的な視点及び家庭や地域との連携

	実践例
教科等横断的な視点	<b>言語能力</b> 実験結果や考察を整理してノートにまとめたり, 仲間に伝えたりしながら思考したことを表現する。
家庭や地域との連携	自分の家が建っている場所や, 住んでいる地域の地盤について調べ, 防災・減災について話し合う。

4 学習展開

過程	主な活動
課題の設定	・震度の分布図を見て, 同心円状に分布していないことに気づき, 理由を考える。 <b>地盤の固さによって, 揺れの大きさは変わるのだろうか。</b>
予想・仮説	・地盤の固さと, 揺れの大きさの関係について仮説を立てる。
実験	・プリンとカステラを地盤に見立て, 同じ力を加えて揺らすことで, 揺れ方どのような違いがあるのかを調べる。 
結果の処理	・カステラの上に置いた菓子は倒れないのに対し, プリンの上に置いた菓子は倒れることから, プリンの方がカステラに比べて, 揺れが大きいことに気付く。
考察	・プリンとカステラの揺れ方の違いから考察する。
まとめ	・地盤の固さと揺れの大きさの関係について, 考察したことを全体で交流する。 <b>やわらかい地盤の方が, 揺れが大きくなる。</b> <b>【問い】今日の学習を踏まえて, 「あなたが将来, 家を建てる時に, どのような所に建ると, 地震による被害を抑えられるでしょうか。」</b> ・家を建てる際に, 地質調査を行ったり, 免震構造を組み込んだりすることを学び, 日常生活とつなげて振り返る。

# 身近な食材を活用したモデル実験を通して

## 減災の意識を高める学習

第1学年

大地の成り立ちと変化

こんな子どもたちの姿が生まれました！

- ・プリンやカステラ等の身近な食材を地盤に見立てたモデル実験を通して、地盤の性質と揺れ方、建築物の立地や構造と揺れ方を関係付けて考え、減災に対する意識が高まりました。

### 身近な食材の活用による効果①（地盤のかたさの違いによる揺れ方の比較）



⇒プリン上のチョコレート菓子はすぐに倒れた

カステラよりプリンの方がやわらかい。カステラとプリンの上にチョコレート菓子を置き、紙皿の下に敷いた画用紙を揺らすと、プリン上のチョコレート菓子は簡単に倒れた。

「理科の見方・考え方」を働かせてモデル実験を行い、科学的に探究することができるようにする。

- ・ICT端末で、プリンとカステラが揺れる様子を動画で撮り、揺れ方の違いを繰り返し確認し、比較する。
- ・震源からの距離（画用紙を揺らす位置）やマグニチュード（加える力の大きさ）を変えたときの揺れ方を比較する。

#### 教師の指導のポイント

- ・カステラやプリンが地盤のモデル、上に載せたチョコレート菓子が住宅のモデルであることを確認してから実験を行うことで、地盤の固さと揺れ方を関係付けて考えることができるようにする。

### 身近な食材の活用による効果②（建築物の立地や構造の違いによる揺れ方の比較）



高さの違いによるチョコレート菓子の揺れ方の比較



チョコレート菓子の差し込みの有無による揺れ方の比較

条件を変えてモデル実験を行うことで、災害に強い建築物を建てるための要素（立地・構造）について考えることができるようにする。

- ・同じプリンで、高さが違う所を作り、その上に置いたチョコレート菓子の揺れ方を比較することで、標高の高さと、地震の揺れの大きさの関係について考察する。  
（建築物の立地）
- ・チョコレート菓子をプリンに差し込むと揺れが小さくなることから、基礎杭の重要性に気付く。  
（建築物の構造）



・プリンはカステラに比べて水分が多いから、やわらかいのだと思います。岐阜県でいうと、川の近くの土地はやわらかいはずですが。だから、将来、家を建てる時に、川の近くの土地は向いていないということが分かりました。

#### 教師の指導のポイント

- ・単元を通して、同じ教材で条件を変えて実験を行い、災害に強い建築物を建てるための要素を一つ一つ明らかにする。さらに、減災という視点をもって、将来、家を建てる際に何に配慮すべきか考えたり、災害に備えるために何ができるか考えたりすることで、自分の生活とつなげて振り返ることができるようにする。

1 本時のねらい（4／10時）

- ・日本で多様な自然災害が起こる原因を考えることを通して、日本の地形や気候の特色が自然災害の原因であり、日頃から防災意識を高める必要があることに気付き、災害に遭った時の具体的な行動の仕方を考えることができる。

2 評価規準

- ・日本の地形や気候の特色が自然災害の原因であり、日頃から防災意識を高める必要があることに気付き、災害時に具体的にどのように行動をすればよいか考えている。（思考・判断・表現）

3 防災教育の充実に向けて

（1）防災教育を通して育成したい資質・能力及び本時の実践

	実践例
防災教育を通して育成したい資質・能力	<b>思考力, 判断力, 表現力等</b> 自らの安全の状況を適切に評価するとともに、必要な情報を収集し、安全な生活を実現するために何が必要かを考え、適切に意思決定し、行動するために必要な力を身に付けていること。
防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえた本時の実践	自治体が公表しているハザードマップを用いて、地域の災害区域や避難場所等を確認する。災害が発生しそうな時や発生した時にどのような対応をしていくかを考える。

（2）教科等横断的な視点及び家庭や地域との連携

	実践例
教科等横断的な視点	<b>情報活用能力</b> 一人一台端末を活用して、地域の災害区域の情報を収集する。
家庭や地域との連携	地域の災害区域の情報を家族と共有し、もしもの対応について家族で話し合う。

4 学習展開

過程	主な活動			
課題の設定 予想 追究 全体交流	<b>日本で、多様な自然災害が起こるのは、なぜだろう。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本単元で学習した既習事項を基に、自然災害が起こる理由を予想する。</li> <li>・資料を読み取り、調べる。</li> <li>・調べた事実を交流する。</li> </ul>			
まとめ	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;">日本は変動帯に位置して、大地の動きが活発なため、地震や火山の噴火、土砂崩れや液状化などが起きる。</td> <td style="width: 33%;">梅雨や台風による長く続く大雨によって、河川の洪水や土砂崩れや土石流が起きる。</td> <td style="width: 33%;">瀬戸内では、中国山地と四国山地にはさまれているため、年間を通じて降水量が少なく、干害が起きる。</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;"><b>日本の地形・気候の特色が、多様な自然災害の原因になる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な自然災害が起きる日本であるからこそ、日頃からの防災意識が必要であり、自助・共助・公助が大切であることを理解する。</li> <li>・地域のハザードマップを基に、地域で起こりやすい自然災害を理解し、災害時の学校、自宅、外出先にいる場合の具体的な行動を書き、交流する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの地域は、長良川近くにあるため、洪水が起きる危険性がある。だから、浸水しない高い場所に避難するとよいと思う。</li> <li>・自分の家は山の近くにあり、ハザードマップを見ても、土砂災害の危険があることが分かった。だから、家族と避難場所の確認をしておきたい。</li> </ul> </div>	日本は変動帯に位置して、大地の動きが活発なため、地震や火山の噴火、土砂崩れや液状化などが起きる。	梅雨や台風による長く続く大雨によって、河川の洪水や土砂崩れや土石流が起きる。	瀬戸内では、中国山地と四国山地にはさまれているため、年間を通じて降水量が少なく、干害が起きる。
日本は変動帯に位置して、大地の動きが活発なため、地震や火山の噴火、土砂崩れや液状化などが起きる。	梅雨や台風による長く続く大雨によって、河川の洪水や土砂崩れや土石流が起きる。	瀬戸内では、中国山地と四国山地にはさまれているため、年間を通じて降水量が少なく、干害が起きる。		
次時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【家庭学習】身近な場所で、自然災害が起きると危険な場所を撮影する。</li> <li>・撮影した写真を示しながら、地域の危険箇所や防災について交流する。</li> </ul>			



# 日本・地域の地形や気候と自然災害を

## 関連付け、防災意識を高める学習

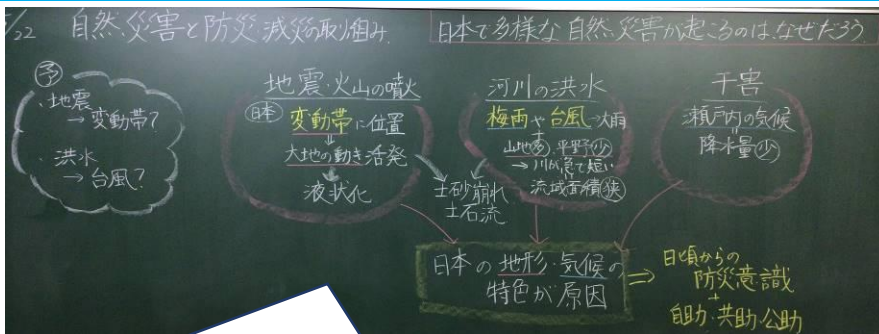
第2学年

自然災害と防災・減災の取組

こんな子どもたちの姿が生まれました!

- ・日本が多様な自然災害が起きやすい地形や気候であることや、自分たちの住む地域も地形・気候により自然災害が起こる可能性があることを理解することで、自然災害に対する危機意識や防災意識が高まりました。

### 日本の地形や気候と自然災害を関連付けて考えることによる効果



社会科を学ぶことの意義や有用性を実感し、社会科学習への関心を高めることができるようにする。

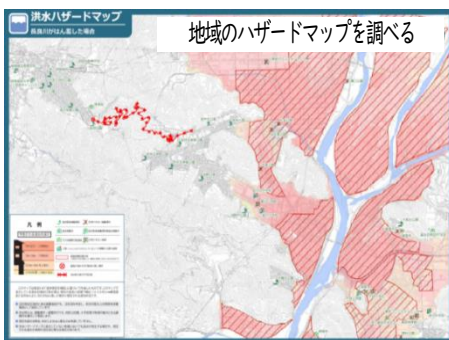
- ・既習事項である日本の地形や気候の特色と関連付けて、自然災害が起こる原因を考える。
- ・多様な自然災害が起こる日本であるからこそ、日頃からの防災意識を高める必要があり、自助・共助・公助が大切であることに気付く。

これまで学習してきた日本の地形や気候の特色が、多様な自然災害に繋がっていることが分かり、今後大きな自然災害にあうのではないかと心配になりました。そんな自然災害が起こりやすい日本だからこそ、普段から防災意識を高める必要があると思いました。

### 教師の指導のポイント

- ・自然災害の発生件数をグラフ等で示すことで、自然災害に対する危機感をもたせ、学びの必然性を生み出す。
- ・前時までの学びを掲示物で示したり、前時までの資料等を確認するように声をかけたりすることで、既習事項である日本の地形や気候の特色を想起できるようにする。

### 地域の地形や気候と自然災害を関連付けて考えることによる効果



出典:岐阜市洪水ハザードマップ

次時:危険だと思われる場所を実際に確認する・交流する



「社会的な見方・考え方」を、日常生活などにおける問題発見・解決の場面で働かせることができるようにする。

- ・自宅周辺やよく訪れる地域で起こりやすい自然災害を、一人一台端末を活用して確認し、災害時に具体的にどのような行動をすればよいか考える。
- ・家庭学習として、一人一台端末を活用して、自然災害が起きた場合に危険だと思われる場所を撮影し、次時に学級内で交流する。

私達の地域は、長良川の近くにあるため、洪水が起きる危険性があります。特に近所のアンダーパスは危険だと思いました。だから、浸水しない高い場所に避難するとよいと思いました。そして、私たちにとって、自然災害は他人事ではないと感じました。

### 教師の指導のポイント

- ・地域のハザードマップから考えたことや、危険だと思われる場所について、交流する場面を位置付けることで、新たな気づきや、仲間同士で「この場所はお互いに気を付けよう。」という防災意識が生まれるように工夫する。

1 本時のねらい（2／4時）

- ・自然災害に備えるための「我が家の防災対策プロジェクト」を考える活動を通して、「安全」「協力」などの視点からプロジェクトを考えることが大切だと気づき、計画を工夫することができる。

2 評価規準

- ・自然災害に備えるための我が家の防災対策に関する課題の解決に向けて、よりよい生活を考え、計画を工夫している。（思考・判断・表現）

3 防災教育の充実に向けて

（1）防災教育を通して育成したい資質・能力及び本時の実践

	実践例
防災教育を通して育成したい資質・能力	<b>思考力・判断力・表現力等</b> 自らの安全の状況を適切に評価するとともに、必要な情報を収集し、安全な生活を実現するために何が必要かを考え、適切に意思決定し、行動するために必要な力を身に付けていること。
防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえた本時の実践	自分の家族や自分自身にとって、どんな防災対策をするとよいのかを考え、情報を収集して計画を立てる。

（2）教科等横断的な視点及び家庭や地域との連携

	実践例
教科等横断的な視点	<b>情報活用能力</b> 一人一台端末を活用して、家でできる対策の情報を収集する。
家庭や地域との連携	「我が家の防災対策プロジェクト」を計画後、家庭で実践する。

4 学習展開

過程	主な活動
生活の課題の発見	・前時考えた「衣」「食」「住」などのテーマでの防災対策について調べてきたことを交流する。 <b>自然災害に備えるための「我が家の防災対策プロジェクト」の計画を立てよう。</b>
解決方法の検討と計画	・計画を立てる。 ①実践のテーマを決める。 （例）食の場合「被災したときの食事ってどうするの。」 ②現状の問題点は何か。 ・水が足りない。温かい物が食べられない。非常食だとあきてしまう。 ③家族や自分の願いは何か。 ・家にあるお米って使えないかな。野菜って使えないかな。 ④実践後、どんな姿にしたいか。 ・家族みんなが健康に過ごせるような非常食を準備する。 ⑤実践する内容を調べながら考えていく。 【視点】「安全」「安心」「健康」「協力」
計画の評価・改善	・自分の考えを仲間と交流する。 交流グループ（同じテーマの人・違うテーマの人） ・計画を見直す。
家庭・地域での実践	・まとめる。 現在の家の状況と防災対策をした後の姿を思い浮かべながら、家族みんなが安心して過ごすことができようように、プロジェクトを考えることができた。計画通りに実践してみたい。

# 「我が家の防災プロジェクト」の計画を通して

## 防災意識を高める学習

第2学年

衣食住の生活についての課題と実践

### こんな子どもたちの姿が生まれました!

- ・自然災害に備えるために自分の家で行っている防災対策を見直し、足りないことや工夫できることを考え、自分の家で実践できる防災対策を計画することができました。また、実際に計画を実行することで、家庭での防災対策を意識し、今後も防災対策を大切にしていきたいという意識をもつことができました。

### 「我が家の防災プロジェクト」の計画 ①



防災に関わり、家庭科を学ぶことの意義や有用性の実感、及び家庭科への関心を高めることができるようにする。

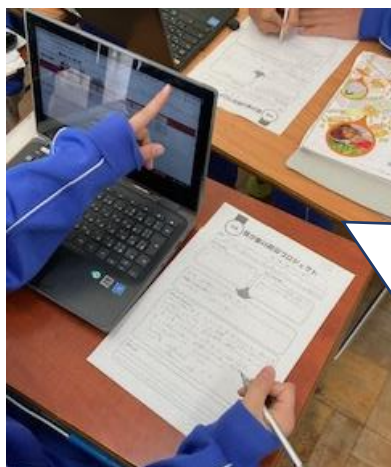
家で非常食を調べてみたら、準備している物が少なかった。これでは、災害が起きたときに困ると思った。3日間から1週間分の非常食を、栄養面も考えて準備して、災害に備えておきたい。

- ・各自の家で調べてきた防災対策の現状を把握する。
- ・家族や自分の防災対策に対する願いを考える。
- ・防災対策プロジェクトを終えた後の姿を明確にする。
- ・防災対策プロジェクトのテーマを具体的に考える。

### 教師の指導のポイント

- ・前時に「衣・食・住」の中からどのテーマで防災プロジェクトを行うのか選び、そのテーマに沿って、各自の家庭での防災対策の現状を調べてくるようにする。写真を撮ったり、家族にインタビューをしたりする調査活動を基に、我が家の防災対策プロジェクトを考え、防災対策を自分事として意識できるようにする。

### 「我が家の防災プロジェクト」の計画 ②



計画の立て始めは、避難中に困らないようにという視点で非常食を準備しようと思っていた。でも、いろいろな人と交流をして、非常食を食べるけど、栄養を摂るという「健康」の視点も取り入れて防災プロジェクトを行いたいと思った。

「家庭分野の見方・考え方」を、日常生活などにおける問題発見・解決の場面で働かせることができるようにする。

- ・自分の決めたテーマ（例：リビングの地震対策を完璧にしよう）に沿って、「安心」「安全」「健康」「協力」の視点を意識し計画を立てる。
- ・同じテーマや異なるテーマの人と交流し、意見交流をする。
- ・交流を通して、さらに工夫や改善ができそうな点を検討し、計画を再考する。

### 教師の指導のポイント

- ・交流では、計画時に大切にしたい視点を明確にすることで、同じテーマや異なるテーマの仲間から、「工夫や改善すべき点はあるか」「取り入れることができるアイデアはあるか」など、仲間から学ぶことができるようにする。



1 本時のねらい

- ・お薬手帳の役割や利用の仕方を考えることを通して、お薬手帳の記載内容は、避難時に服薬する際に、重要な情報になることを理解することができる。

2 評価規準

- ・医療機関の役割と利用の仕方、医薬品の作用・副作用などについて理解している。(知識・技能)

3 防災教育の充実に向けて


(1) 防災教育を通して育成したい資質・能力及び本時の実践

	実践例
防災教育を通して育成したい資質・能力	<b>知識及び技能</b> 様々な自然災害等の危険性、安全で安心な社会づくりの意義を理解し、安全な生活を実現するために必要な知識や技能を身に付けていること。
防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえた本時の実践	お薬手帳の記載内容が、避難時に役に立ったり、命を守るためには必要であったりすることを確認する。

(2) 教科等横断的な視点及び家庭や地域との連携

	実践例
教科等横断的な視点	<b>情報活用能力</b> 医薬品に関連するウェブサイトから、情報収集し、学びに活用する。
家庭や地域との連携	家族のお薬手帳の記載内容を保護者と共有する。

4 学習展開

過程	主な活動
導入 課題設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ウォームアップ」を活用し、自分の薬の飲み方を振り返る。</li> <li><b>医療機関の利用の仕方や医薬品の正しい使い方を理解しよう。</b></li> <li>・医療機関の役割と利用の仕方について知る。</li> <li>・医薬品の説明書を読み、どんなことが書かれているかを知る。 →使用方法（回数、使用時間、使用量）…主作用を最大限に働かせる。 副作用を最小限に抑える。</li> </ul>
展開	<p>用法・用量を守り、正しく服用することで、主作用を最大限に働かせることができる。また、使う人の体質や状態、使い方などによっては副作用のリスクがある。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然災害時、薬を服用している人が不安に思ったり、困ったりすることはないだろうか。</li> </ul> <div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害前に必要な医薬品を準備しておかないといけないね。</li> <li>・小さな子どもやお年寄りが飲む場合、お薬手帳があった方が安心だな。</li> <li>・副作用や用法などはみんなが知っておいたほうがよさそうだ。</li> <li>・今はお薬手帳のアプリもあるよだから活用するとよいね。</li> </ul> </div> </div> </div>
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品を有効活用すること、正しく使うことの大切さを理解する。その上で、医薬品だけに頼るのではなく、栄養、休養、睡眠をとり、自然治癒力が十分に発揮されるようにすることの大切さを知る。</li> </ul>

## 災害時の危機意識を高める

### 「お薬手帳」を活用する学習

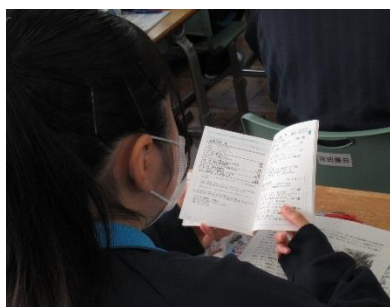
第3学年

健康な生活と疾病の予防  
(カ)健康を守る社会の取組

こんな子どもたちの姿が生まれました！

- ・自分のお薬手帳を確認することで、自然災害時や避難時への備えの必要性を実感し、医薬品の正しい使用の仕方を改めて考え直すことができました。

#### お薬手帳の活用による効果①「知識の習得」



お薬手帳を見てみると、薬の主作用である効能はもちろん、副作用や飲み合わせ、用法・用量について詳しく書いてありました。今、服用している薬の服用方法について見直すことができよかったです。

保健体育で自他の健康について考えることの意義や、保健分野で正しい知識を身に付けることの大切さを知ることができるようにする。

- ・お薬手帳を活用し、薬の主作用や副作用について確認する。
- ・服用したことのある薬の副作用や飲み合わせなど、健康に関わる注意事項を知ることができる。
- ・現在飲んでいる薬の服用方法が正しいかどうかを確認する。

#### 教師の指導のポイント

- ・主作用や用法などについて具体的に書かれているページを示したり、副作用で注意すべきことについて触れたりしながら、知識の習得に生かしていく。(個人情報に当たるため取り扱いに注意する。)

#### お薬手帳の活用による効果②「知識の活用」

##### 主な既往歴

- アレルギー性疾患
- 肝疾患
- 心疾患
- 腎疾患
- 消化器疾患

- ・お薬手帳には、血液型やアレルギー歴、既往歴や副作用歴が記載されていることを知りました。万が一の災害時には、これを持ち運ぶことで自他の健康や命を守ることができそうです。今はお薬手帳のアプリもあるので、うまく活用できるといいと思いました。



保健の見方・考え方を働かせ、自他の命や健康について考えることができるようにする。

- ・災害時等の避難先で、服薬や投薬が必要になったらどうするかを考える場を設ける。
- ・主作用や副作用はもちろん、既往歴やアレルギー歴などを知ることによって、災害時などの服薬について考えることができるようにする。
- ・お薬手帳には、スマートフォンなどで活用できるアプリがあることを確認する。

#### 教師の指導のポイント

- ・「万が一、自分や自分の家族が避難することになったら…」というように“自分事”として考えさせることで、習得した知識を活用した授業展開になるようにする。

1 本時のねらい

- ・主人公のボランティア活動をきっかけに社会連帯の必要性に気づき, 地域社会の一員としてよりよい社会を築こうとする態度を育てる。

2 評価の視点

- ・ボランティア活動をする人は, 受ける人と同じ目線で接することが大切であることに気づき, 社会の一員としての役割や責任を果たすために, 今後のボランティア活動や地域の活動に積極的に参加していきたいと考えている。

3 防災教育の充実に向けて

(1) 防災教育を通して育成したい資質・能力及び本時の実践

	内容
防災教育を通して育成したい資質・能力	<b>学びに向かう力・人間性等</b> 防災に関する様々な課題に関心をもち, 主体的に自他の安全な生活を実現しようとしたり, 安全で安心な社会づくりに貢献しようとしたりする態度を身に付けていること。
防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえた本時の実践	道徳的価値に関わらせながら, 地域の人との関わりにより, ボランティアは互いの助け合いが必要であると気付く主人公に共感することで, 地域へのよりよい関わり方を考えられるようにする。

(2) 他の教育活動との関連及び家庭や地域との連携

	内容
他の教育活動との関連	〈社会科〉公民的分野の学習を通して, よりよい社会をつくっていくのは自治体の力だけでなく, 自分たちの社会活動への参加も重要な要素であることに気付く。 〈総合的な学習の時間〉地域の特性を知り, 未来の大垣市の防災のために自分ができることを考える。
家庭や地域との連携	地域の防災活動に参加する。

4 学習展開

過程	主な活動
導入	1 価値に関わる自分の行動や考えを振り返る。
展開前段	○これまでどんなボランティア活動に取り組んできたか。
	2 教材を読んで, 公共の精神について話し合う。 ○すごすごと帰る加山さんはどんな思いだったのだろうか。 ○加山さんの肩の力みが抜けて楽になったのはなぜだろうか。 ◎地域社会で生きる一員として, 互いに支え合っていくために大切なことは何だろうか。
展開後段	3 地域でボランティア活動を行っている方の話を聞き, 地域社会で自分たちが役に立つためにはどうするとよいか考える。
終末	4 本時の学習を振り返る。 ボランティア活動をする人は, 受ける人と同じ目線で接することが大切であることに気づき, 社会の一員としての役割や責任を果たすために, 今後のボランティア活動や地域の活動に積極的に参加していきたいと考えている。



# 「社会参画, 公共の精神」の意識と社会連帯の 自覚を高めるゲストティーチャーを活用した学習

第3学年

主題名「寄りそう中で」(C 社会参画, 公共の精神)  
教材名「加山さんの願い」(東京書籍)

## こんな子どもたちの姿が生まれました!

- ・主人公のボランティア活動をきっかけに社会連帯の必要性に気づき、地域社会の一員としてよりよい社会を築こうと考えられるようになりました。

## ゲストティーチャーの活用による効果

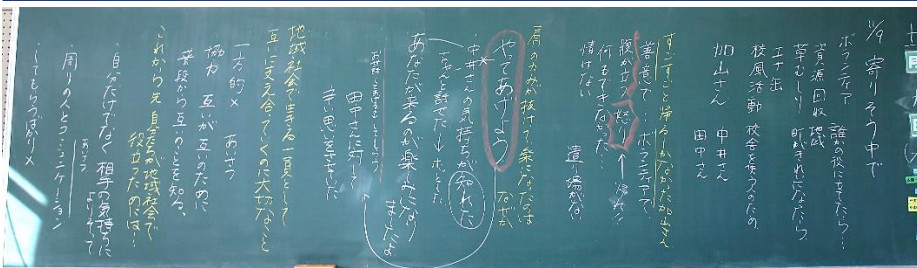
ボランティア活動は一方の自己満足で終わるのではなく、相手も自分も安心してできるように互いを知りながら支え合っていくことが大切だと思いました。



地域の中で自分の役割を自覚することで、助け合いの精神が育まれることに気付けるようにする。また、多面的・多角的に考え、地域コミュニティをよりよいものにするために、日常から互いに助け合い、励まし合うことが必要であることに気付けるようにする。

- ・これまで自分が行ったことがあるボランティアを振り返る。
- ・主人公が腹を立てる気持ちを考え、ボランティアに対し「してあげている」という意識があることに気付くことができるようにする。
- ・義務感や押しつけではなく、相手の気持ちを捉えられるようになった主人公の心情の変化を考える。
- ・ボランティアなどを通して作られる繋がりが、地域社会において助け合う関係を築くことに繋がるということを考える。
- ・地域でボランティアを行っている防災士から話を聞き、ボランティアや日々の繋がりが防災にも関わること考える。
- ・道徳科と総合的な学習の時間で同じゲストティーチャーから話を聞き、災害時に避難所で中学生ができることについて考えをもつ。

災害は必ず来る。その時は君たち中学生の力が必ず必要になる。この資料のように日常から地域と繋がることが命を救うことに繋がると思います。これからも様々な地域行事に積極的に参加してほしいと思います。



【総合的な学習の時間との関連】  
道徳の授業の2週間前に、総合的な学習の時間を使って、HUG(避難所運営ゲーム)の学習を行いました。道徳と同じゲストティーチャーを招き、防災の学習でもたくさんアドバイスをいただきました。避難所内で中学生ができることはたくさんあることを学びました。

## 教師の指導のポイント

- ・ボランティア活動をする人は、ボランティアを受ける人と同じ目線で接することが大切であることに気付けるように問い返しをする。
- ・社会の一員としての役割や責任を果たすために、今後のボランティア活動や地域の活動に積極的に参加することの大切さをゲストティーチャーの言葉から考える。
- ・その他のゲストティーチャーの活用に向け、国土交通省、消防士、消防団、役所の防災課等と連携を図る。

中学校 第1学年 総合的な学習の時間 「自己と地域を知る」

1 本時のねらい（12／20時）

- ・一人一人のテーマの解決に向けて収集した情報を外部講師の助言を基に整理する活動を通して、防災における新たな視点に気づき、自分の考えを再考することができる。

2 評価規準

- ・伝える相手に合った減災や防災の取組について考えることができている。（思考・判断・表現）

3 防災教育の充実に向けて

（1）防災教育を通して育成したい資質・能力及び本時の実践

	実践例
防災教育を通して育成したい資質・能力	<b>思考力，判断力，表現力等</b> 災害時の被害を減らすために，事前や直後に何が必要かを考え，適切に意思決定し，行動するために必要な力を身に付けていること。
防災教育を通して育成したい資質・能力を踏まえた本時の実践	それぞれが設定したテーマについて調査した結果から生まれた疑問を，地域専門家から受けた助言をもとに，再考する。

（2）教科等横断的な視点及び家庭や地域との連携

	実践例
教科等横断的な視点	<b>情報活用能力</b> 一人一人がタブレット端末を活用し，課題の解決に向けて必要な情報を収集，整理して発信する。
家庭や地域との連携	市内の中学校と実践交流をしたり，市役所や病院，幼稚園，小学校，介護センター，家庭等に防災についてまとめた作品（パンフレット，ポスター，プレゼンテーション等）を掲示したりして，情報を共有する。

4 学習展開

過程	主な活動
課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・瑞穂市役所市民協働安全課から，瑞穂市の防災の状況について，市としての課題や，市民にお願いしたいことなどを聞く。</li> <li>・いつ（災害が起きる時期），誰に（対象者），どのような状況（場面）の防災の提案を行うのかを明確にして課題を設定する。</li> </ul>
情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝える対象者の特性を知り，それを基に課題解決に向けて情報収集を行う。 【例】保育園の先生，施設の方にアンケートを行うなど</li> </ul>
整理・分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清流の国ぎふ防災・減災センター村岡治道 特任准教授から助言を受け，さらに課題解決に向けて調査する。</li> <li>・対象者の立場に立って，必要な情報を取捨選択していく。</li> </ul>
まとめ・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝える対象者に向けて，調べたものをまとめ，発信する。 【例】紙芝居，ポスター，パンフレット，プレゼンテーション，ホームページなど</li> </ul>

## 専門知識をもった外部講師と行う、

# 防災・減災を自分事として捉える地域探究学習

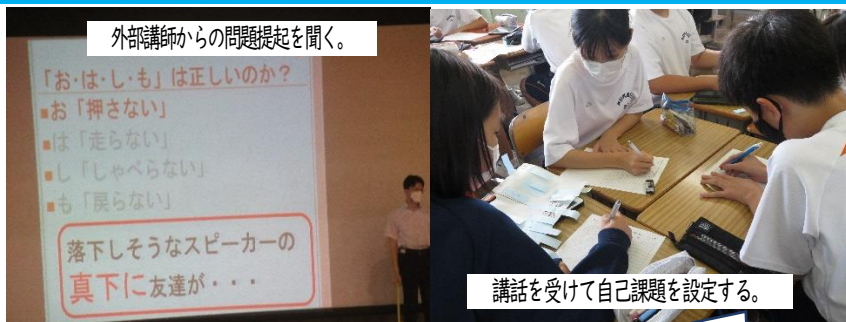
第1学年

自己と地域を知る

こんな子どもたちの姿が生まれました！

- ・外部講師からの問題提起や助言を聞くことで、防災を自分事として捉え、自らの力で調査・検証し、よりよい解決方法を見つけ出そうとする姿が増えました。

### 外部講師の活用による効果①



外部講師からの問題提起を聞く。

講話を受けて自己課題を設定する。

より安心安全な地域にするために、探究的な自己課題を設定することができるようにする。

- ・清流の国ぎふ防災・減災センターの村岡治道特任准教授による講話を聞き、今のままで本当に災害から自分たちの命が守れるのか考える。
- ・災害から自分たちの命を守るためにどんなことについて調べたいか自己課題を設定する。

今まで命を守る訓練で「お・は・し・も」を守るよう教わってきたけれど、場合によっては戻ったり声を出したりする必要があることが分かりました。今後は、自分たちの命を守るために、質の高い訓練の行い方について考えたいと思いました。

### 教師の指導のポイント

- ・防災に対する自分の考え方と、講話を聞いた後の認識の変化を比較しながら、自己課題を設定することができるようにする。

### 外部講師の活用による効果②



調査して生まれた疑問について、助言をもらう。

同市内の中学生と意見交流を行う。

課題解決のための考えについて、調べるだけでなく実際にそれが有効かどうか検証することが大切であると学びました。検証実験を行い、よりよい解決方法を見つけていきたいです。

他校の人と話し合うことで、自分達とは違った視点の意見が聞けて新たな発見があったり、自分たちが調べたことを次へつなげたりすることができました。防災に関する知識が広がって、より興味がわき、防災について知ることが楽しくなりました。

設定した自己課題について、探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく解決できるようにする。

- ・設定した自己課題について様々な方法で調査する。
- ・調査の中で生まれた疑問について講師に質問し、助言を受ける。
- ・助言をもとに、課題解決に向けさらに調査する。
- ・調べた結果を伝える相手に分かりやすいようにまとめる。
- ・まとめたものを実際に発表したり掲示したりする。

### 教師の指導のポイント

- ・整理・分析の際に、伝える対象者への意識を大切にして、課題の解決ができているかの視点をもたせ、解決方法を精選させる。



## 18 防災教育の実践に当たって ～強化チーム委員からのメッセージ～

私は3年間、「岐阜県防災教育強化チーム」に参加させていただきました。

3年前の第1回目研修会では、岐阜大学流域圏科学研究センターの小山真紀准教授から、「…日常生活の基盤の上に防災教育がある。」とご指導をいただき、私が2011年に宮城県震災派遣教員として石巻市立稲井小学校に勤務したときのエピソードを思い出しました。

当時の体育館は臨時避難所となり、常に100名以上のご家族が不便な生活をしていました。私がいつも感心したことは、体育館の入り口に100足以上の靴が整然と並んでいたことです。余震が続く中できれいに整頓された靴を見ながら、「いつでも避難ができるように靴が整頓してありますね…」と避難者に話しかけると全く予想していない回答が返ってきて、

「…いや違う。避難すること以上にこんな不便な生活をしていると毎日イライラすることばかりだわ。乱雑な靴を見るだけでイライラしてすぐケンカになる。だから、みんなで靴ぐらいはいつも揃えよう…」と決めた。」

と言われました。私はこの言葉を聞いて、学校で靴を揃えるように「指導する意味」が初めてわかりました。靴を揃えることは「心を整えること」に通じ、整った環境では心が穏やかになり、逆の環境では乱暴になります。改めて整った環境で子どもを育てる意味を知り、日頃から心を耕すことが、災害時でも大きなストレスに耐える力となり、日常生活の中で防災教育を継続する大切さを学びました。

岐阜県防災教育強化チーム委員 高山市立江名子小学校 校長 松井 健治

平成24年度、私は宮城県の小学校で一年間勤務しました。

その学校で出会ったのは、震災を経験した子どもたちでした。普段の様子は岐阜の子どもたちと変わらないように思いましたが、その頃はまだ余震も多く、不安な日々を送っていたのだらうと思います。しかし、地震が発生したときの避難行動の素早さには驚くものがありました。辛い経験の中で、命を守るスキルを確実に身に付けてきたことがうかがえました。

子どもたちが自分の命を守る行動を取ることができるようにするためには、多くの経験や学習等が必要です。その積み重ねにより、いざという時、自ら判断し行動することができるようになると考えます。このことは、これからの時代を生きていく上で大切な力となるはずです。

私たち教師も多くの体験や学習（実践）を積み重ね、防災教育に臨みたいものです。様々な実践や学習を交流し、新たにチャレンジすることが子どもたちの意識を高める事につながります。これからの未来を生き抜く子どもたちが、どのような状況であっても、自分で考え、判断し、行動する力を身に付けられるようにしたいものです。

岐阜県防災教育強化チーム委員 郡上市立大和西小学校 校長 猪俣 哲夫

東日本大震災から10年後の2021年の冬、私は初めて宮城県石巻市の大川小学校を訪ねました。震災遺構として震災伝承館等が整備されたとはいえ、津波によってねじり倒され、破壊された渡り廊下や校舎からは、自然災害の恐ろしさがひしひしと伝わってきました。

残された教室や体育館、屋外ステージ…。自校の子ども達と同じような笑顔がそこにあっただしょう。歓声も聞こえていたでしょう。この地で日常を生きていた児童74名、教職員10名の命は、何故奪われなければならなかったのか。重く悲しい気持ちに苛まれながら大川小学校を後にして、私は自分にできることは何かを考えました。

子ども達の命を守るためには、やはり教師一人一人が自分事として防災意識を高め、防災教育に臨まなければなりません。南海トラフ巨大地震や温暖化による豪雨災害など、想像を超える自然災害に見舞われたとしても、私たち教師は最大限の力を発揮して子ども達の命を守る使命があります。現状に甘んずることなく、教師は防災・減災への意識を常に高め、多面的・多角的に防災教育を進めなければなりません。

全ては子どもの命を守り、未来を守るために。



2021年12月27日 石巻市震災遺構大川小学校にて筆者撮影

岐阜県防災教育強化チーム委員 御嵩町立上之郷小学校 教頭 河合 律子

私は、2011年7月から3か月間、東日本大震災派遣教員として宮城県気仙沼市の小学校で勤務しました。派遣先の学校では、主に子どもたちの心のサポートを行っていました。子どもたちと過ごす中で「最近、嬉しかったことは何か。」を尋ねると、「家に帰ってドアを開けたら、お母さんがいてくれたこと。」と回答が返ってきたことがあり、今も心に残っています。突然の大きな災害に対し、子どもたちは先の見えない不安と必死に戦っているのだと感じました。災害による被害は数字で表されるものだけでなく、人の心にも長く大きな影響を与えることを学びました。

日常生活の中で子どもたちの心に寄り添い続けること、そして、子どもたち自身に命を守るための行動力を身に付けさせるために、防災教育につながりを持たせ、さらに充実させることが大切であると考えます。

岐阜県防災教育強化チーム委員 養老町立上多度小学校 養護教諭 西脇 知美

平成24年度、私は東日本大震災復興支援派遣教員として、宮城県気仙沼市に赴任しました。激動の一年間で、さまざまな体験をしましたが、今でも忘れられない出来事があります。それは、1学期の途中、同僚教師に「震災の当時って、どんな様子でした？」と質問した時のことです。返ってきた答えはたった一言、「みんな津波に遭えばいい。」でした。

彼がなぜその言葉を選んだのか、その真意は未だに分かりません。しかし、この一言が、私の防災教育への考え方を変えるきっかけとなりました。

大地震や津波を体験した人たちにしか見えない景色があることは事実かもしれませんが、しかし、たとえ津波に遭ったことがなくても、その被害を考えたり、記録を見たり聞いたりすることを通して、体験した人たちの抱いた思いや見た景色に近づくことはできるはずで、そのためには、防災教育の充実が大きな鍵を握っているのは間違いないと思います。

岐阜県でも防災教育に前向きに取り組まれる先生方が増えることで、岐阜県の子もたちの防災意識が高まっていくことを願っています。

岐阜県防災教育強化チーム委員 土岐市立濃南小学校 教諭 高木 良太

平成24年度、私は宮城県の中学校で一年間勤務しました。

その地で目にしたのは想像を絶する景色でした。津波に屋上まで吞まれ骨組みとなった建物、変形し道端に転がるトラック。そんな景色がずっと彼方まで。自然災害の恐ろしさを身に染みて感じました。

震災から12年。岐阜県でも自然災害がありました。台風や大雨による浸水・土砂災害、御嶽山噴火による災害、大雪による災害もありました。その度に宮城の仲間から連絡が届きました。「ニュースを見て心配しています。」中には「絶対に油断しないで。」という強い言葉もありました。これ以上、誰にも辛い思いをしてほしくないという強い願いを感じました。寄贈した「さるぼぼ」は、11年たった今でもなお各教室にあるそうです。震災を忘れず、人の気持ちを忘れず、高い防災意識で過ごす宮城の方々の思いが伝わります。

防災教育を考えると、宮城のある先生の言葉が浮かびます。

「大人は体力があるから防災の備えを怠る。子どもを守る気持ちが防災を真剣に考えさせる。だから防災教育は価値がある。防災意識は子どもから地域に広がる。」

宮城の方々の思いを受け、命を大切に行動できる人に成長してほしいと願います。

岐阜県防災教育強化チーム委員 高山市立新宮小学校 教諭 都竹 雅人



## 19 強化チーム委員の皆さんから実践後に寄せられた声をご紹介します

教科・領域における防災教育に取り組む中で見つけた、児童生徒の素敵な姿を教えてください。

- 「家に非常用持ち出し袋があるか確かめてみよう。」という投げかけに対して、家に帰って早速、保護者と話し合う児童が多くいた。素直に行動できる児童に感心した。
- 調べた情報を全校に広げる必要があると考え、放送委員会で定期的に防災について放送し、備えることの必要性を発信し続けていた。
- 地域の方々と交流していく中で、「自分たちも地域社会の一員であるという意識が高まった。」「災害時に協力するだけではなく、日頃からの関わりや繋がりが重要だと感じた。」などの感想を述べるようになった。
- 防災の授業を行ったことで、その後の自主学習で防災について取り組んでいる児童がいた。また、11月に行われた地域の防災訓練では、6月の防災学習を思い出しながら参加している児童がたくさんいた。
- 家の人が体験した災害や知っている災害について話を聞くことを自主学習課題として出したところ、それぞれの家庭で色々な話を聞いてきて、学級全体で交流できたことが大変有意義だった。
- 災害が起きた時の身の守り方を考える場面で、「普段から部屋をきれいにしておかなくてはいけない。」と自分の生活を振り返っていた。
- 地域の方や保護者と一緒にD I G訓練を行い、地域の危険箇所や起こりうる危険について、大人よりも児童の方が発想が柔軟で、たくさん危険について意見を出していた。
- 地域のハザードマップや自分たちで撮影してきた危険だと思う場所の写真を基に、防災を自分事として捉え、積極的に仲間と語り合っており、生徒が自分の命を守ること、この先の自助・共助につながると感じた。

通常の教科・領域の授業の中で防災教育を行ったことで、通常の教科・領域の授業はどのように変わりましたか。

- 教科の学習が、ただの学びではなく、普段の日常と密接な関わりがあると感じるようになり、より学ぶ必然性ができた点が変わったと思う。
- 防災の視点を取り入れることで、自然災害を「自分事」として考えることができ、今後の生き方を考えることにつながった。
- 総合的な学習の時間で社会科との横断的な学習を位置付けることができ、自然災害、防災・減災についての深い学びにつながった。
- 災害時を想起させることで、より考えを深めることができ、日常生活の中でよりよい生活をしようと考えさせることができた。資料の準備は必要だが、防災に関するサイトを活用すれば資料を揃えることができた。
- 濃尾地震の被害や根尾谷断層を取り上げたり、高山・大原断層帯、跡津川断層帯を紹介して防災教育の観点を取り入れたりしたことで、理科の大地の単元が身近で、切実感のある学習となった。
- 歴史の学習は過去のこととして捉える生徒もいるが、防災教育の観点を取り入れることで、自分たちにとっての教訓だと感じる生徒、防災を「自分事」として捉える生徒が多くなった。
- 自校の4年生の総合的な学習の時間のテーマが「防災」で、外部講師が潤沢に確保されている半面、子どもたちは受け身で、単なる知識を得る時間になってしまっていた。しかし今年度は、子どもが課題をもち、得たい情報を得、情報を整理・分析することに力を入れたことで、自分たちが地域の防災を行う！と、自分事として学ぶことができた。当たり前のことだが、総合的な学習の時間の本質「探究的な防災学習」をすることが、目指している防災教育であると実感した。

防災教育強化チーム委員として防災教育に取り組んだことは、今後の御自身の教員キャリアにとって、どのような影響があり、どのように生かされると思いますか。

- 普段の授業の中で、防災の内容をどのように関わらせれば良いかという視点を学ぶことができました。
- 子どもたちへの指導だけでなく、同僚の教職員へ防災教育の内容や重要性を発信していく中で生かすことができると思います。
- 災害は必ず来るという考えをもち、「助けられる中学生」から「助ける中学生」へ変化し、自助、共助の考えが広まったり深まったりしました。自分も地域社会の一人として、何ができるかを考えることで、地域の方との距離感も縮めることができました。今後も地域のために動ける生徒を育成する取組を継続していきたいです。
- 教頭としての役割として、若い職員に担ってほしい課題として防災教育を位置付ける重要性を再認識できました。また、地域の方と協働して実践を行うことの大切さを知ることができたことが有意義でした。
- 被災地派遣教員として、感じたことや考えたことを児童生徒に伝えることを行ってきましたが、教科等において防災教育を行ったことはなかったです。防災教育強化チームの一員として活動する中で防災教育の幅が広がり、自分自身の強みと言えるものがより増えました。また、養護教諭がどのように防災教育に関わることができるのかを考えるきっかけにもなりました。
- 防災教育は、重要かつ喫緊の課題であるにもかかわらず、自分自身、教育活動の中では、あまり重要視してこなかったことに気付かされました。南海トラフ地震の可能性、変化の激しい不透明な時代に生きる児童生徒にとって、防災教育の観点が非常に重要であることを改めて感じるようになりました。防災教育を通して、児童が未来をたくましく生き抜く人に育ってくれるように指導に当たろうと決意しました。
- 防災教育は、人権教育、生徒指導、教育相談、エコ、SDGs等と同様に隠れたカリキュラムだと認識しました。どの教科や領域でも、自分が防災の視点をもつことで、子どもに考えさせる場を適時位置付けることができると思います。また、他校へ異動し防災学習に取り組むことになった場合も、何をすればよいのだろうか？と悩むことなく、地域の実態に応じた計画を立てることができると思います。
- 「命を守る訓練」一つだけとっても、“やらされている”ではなく、“主体的にやっている”という意識が大切であることを強く感じました。それは教科・領域の学習についても同様です。災害を自分事として捉え、どのように「防災」「減災」していくのか。災害が起こってからでは遅いということを目の前の子どもたちに繰り返し指導していきたいと思います。
- 防災教育に対する自分自身の関心が高くなったため、日常生活での様々な諸問題や時事問題を防災教育の観点からも捉えるようになりました。教室内外の物の置き方や掲示の仕方、校内巡視では防災という視点から確認・点検し、「命を守る訓練」の実施については、当日の流れだけでなく、事前指導・事後指導の在り方や、各教科・領域との関連についても考えながら計画するようになり、防災教育が自分自身の教育観や日々の実践の中に溶け込んだような気がします。
- 被災地に実際に行かれ、実際に目にされた先生方の言葉は大変重かったです。被災者の方々の現実やその大変さを、先生方の言葉から感じ、これまでよりも防災教育の大切さを強く感じるようになりました。また、「実践事例集」の作成に当たり、多くの教科の実践に目を通す中で、普段は自教科の視点からしか防災教育について考えませんでした。全ての教科でその教科の特性を生かしながら、様々な角度・アプローチで防災教育を行うことが大切であると感じることができました。





この実践事例集  
を読まれ、私も  
『教科・領域に  
おける防災教育』に取り組ん  
でみようと思っ  
ていらっしゃる  
県内の先生方へ  
経験者としての  
メッセージをお  
願います。

■「災害に備えることが大切だ」ということは、大人も子どももすでに分かっていることです。だからこそ、何度も防災について考える機会を作ること、必要感を再確認し、備えるための行動につなげてほしいです。常日頃から、防災の視点を取り入れる機会を探り、互いに学び合う姿勢を大切にして、防災教育を推進していきたいです。

■災害は突然やってきます。その時をただ待つだけではなく、私たち教師の働きかけによって子どもたちや地域の意識や備えを充実させることができます。自助、共助、公助の意識をこれからも学校生活で養い、災害に強い岐阜県をみんなでつくっていきましょう。

■南海トラフ地震の不安が一層高まっています。また、地球温暖化の影響によって各地で豪雨災害が起こるなど、いつでも、どこでも、誰でも自然災害の被害にあう可能性があります。これから生きる子どもたちにとって、防災・減災教育は重要な課題だと強く思います。「自分の命は自分で守り切る」子どもたちに育てていきたい。そして、災害に遭ったとしても、強く生き抜く力を付けたい。そのためには先生方の力が必要です。未来を担う大切な子どもたちの命を守るために、我々の専門性を生かした防災・減災教育に、共に取り組んでいきましょう。

■防災教育を日常的に積み重ねていくことで、災害に備える心を育てることができると思います。私たちがこつこつと防災教育を行うことで、将来子どもたちが、自分の命を自分で守れる人、周りの人を思いやり助け合える人、地域に貢献できる人になってほしいと願います。

■宮城県で一年間勤め、被災地を目の当たりにし、被災者である地域の方や生徒たちと過ごした私も、その時の気持ちや記憶、危機意識が段々と薄れてきています。なんと情けなく、悔しいことか…。児童生徒は、阪神淡路大震災はもちろん東日本大震災でさえ記憶にない年代です。子どもも地域も、次第にあの頃の記憶も危機意識も薄れていくところです。我々は力を合わせ、子どもたちが平時から防災、減災に目を向け、いざという時それを実現できるよう、防災教育を推進していきたいです。

■防災教育は、カリキュラムや教科書があるわけではなく、それでいて大変広い話です。私は、何をどのように取り組むとよいのか分からないことから、敬遠する気持ちがありました。しかし、難しいことではないと分かりました。教師が教科や領域の中で、防災の視点を持ち、子どもに考えさせる場をもつことで、様々な場面で防災の意識や行動力が育まれていくと思います。自分や他の命を守れる人間を育てていきたいです。

■教科や領域等の中に、「防災教育の視点」を取り入れるだけで、普段の学びがぐんと広がりました。学校には「〇〇教育」と名の付くものが多いですが、教員間でうまく整理して取り組めば、教科等と補完し合い、教育効果を上げられると思います。難しく考えるよりもまずは内容が関係していてわかりやすい単元などから実践をしてみませんか。そして、校内で他の先生方と「6～9月は大雨が降るし、防災のこと扱ってみない？」と声を掛け合うだけで、他学年や他教科との関連も生み出せると思います。

■いつか必ず来る災害を「自分事」にする防災教育は、児童生徒の命につながる大切なものです。全ての教科で、その教科ごとの特性を生かしながら、様々な角度・アプローチで防災について学ぶことが、大切な子どもたちの命・未来を守ることにつながります。私自身、これからも防災教育を大切にしていきたいと考えていますし、県内の多くの先生方と「同志」として共に頑張っていくことができたらうれしいです。

■実践事例集は、これで完成ではありません。多くの教職員の皆さんがこの実践事例集を使って「もう少し〇〇のように改善した方がいい。」という意見を取り入れ、毎年、加筆・修正を加えることで本当に意味のあるものとなります。年間に1回でいいので、すべての教職員がこの実践事例集をもとに授業を行い、意見が改善のために反映されていくことを願います。





【国土交通省木曽川上流河川事務所】防災教育ポータル

[https://www.cbr.mlit.go.jp/kisojyo/portal\\_bousai/index.html](https://www.cbr.mlit.go.jp/kisojyo/portal_bousai/index.html)



・このサイトでは、学校等で実践する水防災教育に役立つ情報を掲載しています。  
 ・「授業の伝え方や教材（学校向け）」、「自分で調べる・学習する（家庭向け）」、「水防災教育の事例」という3つの視点から、目的にあった情報を収集できます。

「授業の伝え方（発問・板書計画）や教材（学校向け）」

<p><b>過去の自然災害</b></p> <p>国内にて過去に起こった主な自然災害を題材にして、「自然災害はいつでも、どこでも起こる」ことを学ぶ。</p>	<p><b>災害を防ぐ地域の取組（共助について）</b></p> <p>消防団・水防団など、自分たちが住んでいる地域で行われている自然災害へ備えについて学ぶ。</p>
<p><b>災害を防ぐ行政の取組（公助について）</b></p> <p>地域にある施設や行政の取組を題材にして、国や県、市町村が行っている自然災害へ備える取組について学ぶ。</p>	<p><b>私たちに出来ること（自助について）</b></p> <p>自然災害から命を守るために、自分たちに出来る備えや緊急時の行動について学ぶ。</p> <p>ヒントカード</p>

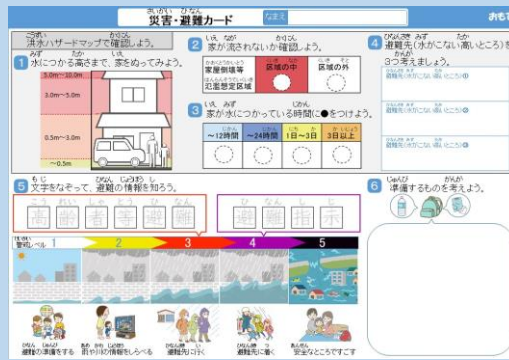


・「過去の自然災害」、「災害を防ぐ行政の取組（公助）」、「災害を防ぐ行政の取組（共助）」、「私たちに出来ること（自助）」の4テーマで授業の伝え方・教材を紹介しています。  
 ・タブレットなどのカメラ機能を活用し、教室内で浸水を体験できるARアプリを掲載しています（令和5年4月公表予定）。  
 ※本アプリはタブレット等に搭載の標準ブラウザで使用できます。別途アプリをダウンロードする必要はありません。

「自分で調べる・学習する（家庭向け）」



「マイ・タイムライン啓発映像」



「マイ・タイムライン作成シート（災害・避難カード）」

・マイ・タイムラインの必要性を知れる啓発映像や小・中学生向けのマイ・タイムライン作成シート（災害・避難カード）などを掲載しています。家庭でも簡単に作成できるよう、作成手順を解説した説明資料も併せて掲載しています（災害・避難カードは令和5年4月公表予定）。  
 ※マイ・タイムラインとは、台風などによって河川の水位が上昇する場合に、自分自身がとる標準的な防災行動を、あらかじめ時系列的に整理することで、災害時の冷静な判断・行動に役立っていただくためのものです。

「水防災教育の事例」

大垣市立青墓小学校の総合的な学習の時間において、木曽川上流河川事務所が作成した教材を使った防災教育の授業を実施しました。

● 日時：令和2年11月12日（月） 10:40～11:25（45分）  
 ● 場所：大垣市立青墓小学校  
 ● 対象：4年級 20名  
 ● 担当：木曽川上流水防災協議会  
 ● 形式：発問・板書計画  
 ● 教材：防災教育ポータルサイト  
 ● 内容：過去の自然災害の事例や、消防団・水防団の活動の様子、地域にある施設や行政の取組の様子、自分たちが住んでいる地域で行われている自然災害への備えについて学ぶ。

【授業内容】  
 ● 導入：過去の自然災害の事例や、消防団・水防団の活動の様子、地域にある施設や行政の取組の様子、自分たちが住んでいる地域で行われている自然災害への備えについて学ぶ。  
 ● 展開：過去の自然災害の事例や、消防団・水防団の活動の様子、地域にある施設や行政の取組の様子、自分たちが住んでいる地域で行われている自然災害への備えについて学ぶ。  
 ● 評価：授業の振り返りや、学習の成果を発表する。

令和2年度 大垣市立青墓小学校の実践

木曽川上流水防災協議会の取組みの一環として、岐阜市立岐阜小学校で「水防教育の授業」を実施しました。

● 日時：令和元年11月12日（月） 10:40～10:55（15分）  
 ● 場所：岐阜市立岐阜小学校  
 ● 対象：4年級 20名  
 ● 担当：木曽川上流水防災協議会  
 ● 形式：発問・板書計画  
 ● 教材：防災教育ポータルサイト  
 ● 内容：過去の自然災害の事例や、消防団・水防団の活動の様子、地域にある施設や行政の取組の様子、自分たちが住んでいる地域で行われている自然災害への備えについて学ぶ。

【授業内容】  
 ● 導入：過去の自然災害の事例や、消防団・水防団の活動の様子、地域にある施設や行政の取組の様子、自分たちが住んでいる地域で行われている自然災害への備えについて学ぶ。  
 ● 展開：過去の自然災害の事例や、消防団・水防団の活動の様子、地域にある施設や行政の取組の様子、自分たちが住んでいる地域で行われている自然災害への備えについて学ぶ。  
 ● 評価：授業の振り返りや、学習の成果を発表する。

令和元年度 岐阜市立岐阜小学校の実践

・防災教育ポータルで紹介している教材等を使用した実践事例を紹介しています。実践事例をご覧くださいことで、授業の進め方をより具体的にイメージできます。

【過去の実践校】

- 岐阜市立則武小学校
- 輪之内町立福束小学校
- 輪之内町立大藪小学校
- 安八町立結小学校 等

## 防災教育実践事例集 作成協力者

### 岐阜県防災教育強化チーム委員

- ・ 小山 真紀 岐阜大学流域圏科学研究センター 准教授
- ・ 猪俣 哲夫 郡上市立大和西小学校 校長
- ・ 松井 健治 高山市立江名子小学校 校長
- ・ 河合 律子 御嵩町立上之郷小学校 教頭
- ・ 二村 亜紀 岐阜市立三里小学校 教諭
- ・ 荒木 雅 岐阜市立長良東小学校 教諭
- ・ 中谷 駿 岐阜市立梅林中学校 教諭
- ・ 瀬口 幹浩 岐阜市立藍川北中学校 教諭
- ・ 五藤 祐子 各務原市立蘇原第一小学校 教諭
- ・ 鈴木 伸一 瑞穂市立穂積小学校 教諭
- ・ 迫田 一輝 瑞穂市立巣南中学校 教諭
- ・ 清水 立貴 本巣市立真正中学校 教諭
- ・ 池原 一磨 大垣市立東小学校 教諭
- ・ 杉山 善章 大垣市立江並中学校 教諭
- ・ 西脇 知美 養老町立上多度小学校 養護教諭
- ・ 高木 良太 土岐市立濃南小学校 教諭
- ・ 小椋 由加里 中津川市立第二中学校 教諭
- ・ 都竹 雅人 高山市立新宮小学校 教諭
- ・ 塚本 育子 高山市立栃尾小学校 教諭

(\*所属は事例集作成当時のもの)

この他、本資料の編集全般にわたり、岐阜県教育委員会学校支援課指導主事及び各教育事務所指導主事が担当した。

□「防災教育実践事例集Ⅰ・Ⅱ」及び「体系的・系統的な防災教育の充実に向けた指導資料」は、岐阜県教育委員会のウェブサイト「ぎふっ子学び応援サイト」内の「教員用ページ」にも掲載しています。

<https://www.pref.gifu.lg.jp/site/edu/61777.html>

